



令和6年度

文化部活動改革（部活動の地域に向けた実証事業等）

地域文化クラブ活動への移行に向けた実証事業

山形県

自治体名：山形県

担当課名：山形県教育局義務教育課

電話番号：023-630-3054

1.自治体の基本情報



基本情報

面積	9,323.15 km ²
人口	1,005,926 人
公立中学校数	96 校
公立中学校生徒数	25,648 人
部活動数	184 部活
都道府県の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
都道府県の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における都道府県の現状・課題

【現状】

本県では、令和2年度に「運動部活動と地域等の連携の在り方に関する検討委員会」を設置し、令和4年度から文化芸術担当課や社会教育担当課も加わり、地域展開に向けて検討を始めている。

令和5年度からは、部活動改革に関する市町村担当課長会議における事例紹介や意見交換等や、部活動改革推進会議における関係団体等との協議及び連絡調整等を実施した。また、部活動改革市町村コーディネーター情報交換会や地区部活動改革情報交換会等を行い、各地区の成果や課題を共有するとともに、県事務局が市町村を訪問し、スポーツ・文化芸術あわせて、それぞれの実態に応じた助言等を行い、県全体で地域展開の推進を図った。

県立中学校では文化部活動が6部あるが、休日に活動を行っている部活動は限られている。様々な市町村から通学している現状があり、休日は居住地や近隣の市町村にあるクラブで活動することがある。

【課題】

- ・単独市町村内の活動における選択肢の限定
- ・指導者及びクラブのマネジメントを担う運営者の人材確保
- ・クラブ運営業務や施設使用に係る申請等の整理
- ・部活動改革の情報不足や誤認識による改革機運の停滞
- ・楽器運搬や活動場所の確保
- ・団体種目による平日の部活動と休日のクラブ活動の接続

実態調査 (R6.12.5～27)

① 休日の地域展開に取り組んでいる部活動数 (中学校)				
	運動部	文化部		
R6	533/943部 (57%)	79/188部 (42%)		
R5	328/984部 (33%)	60/193部 (31%)		
② 地域クラブ活動の満足度 (中学生)		③ 部活動の任意加入制 (R6)		
満足	51%	中学校	公立高校	私立高校
やや満足	41%	92% (66%)	83% (48%)	92% (92%)
合計	92%			
④ 学校外活動における指導の希望 (中学教員)				⑤ 休日の地域展開の取組みを知っている
	希望	条件付希望	希望しない	中学生
平日	7%	27%	66%	中学保護者
休日	7%	26%	67%	中学教員
				24%
				60%
				73%

文化庁

3

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

山形県部活動改革推進協議会において、関係者（中学校文化連盟・高等学校文化連盟・県芸術文化協会・県PTA連合会）と意見交換、情報共有等を行い、市町村へ指導助言を行う。

取組の成果

山形県部活動改革推進協議会において、スポーツと文化芸術を含めて、山形県における地域展開の現状と課題、今後の方向性について検討した。山形県アドバイザーからも広域連携や地域クラブの認証制度、受益者負担やふるさと納税の活用等の財源の確保について助言を受けた。

成果としては、スポーツも含めて、山形県内全35市町村において、部活動の地域展開に着手しており、少しずつ地域展開の理念も広がってきている。また、地域展開に取り組んでいく中で、新たな課題（指導者の確保だけでなく、運営側の人材確保や育成が必要であること）が見えてきたことも成果として捉えている。

今後の課題と対応方針

【今後の課題】

- ・指導者はもとより、クラブのマネジメントを担う運営者の人材確保・育成
- ・単独市町村内の活動における子どもたちの選択肢が限定されることを解決するための複数市町村が連携できる場の設定

実態調査 (R6.12.5～27)

①休日の地域展開に取り組んでいる部活動数（中学校）

	運動部	文化部
R6	533/943部（57%）	79/188部（42%）
R5	328/984部（33%）	60/193部（31%）

②地域クラブ活動の満足度（中学生）

満足	51%
やや満足	41%
合計	92%

③部活動の任意加入制（R6）

中学校	公立高校	私立高校
92% (66%)	83% (48%)	92% (92%)

④学校外活動における指導の希望（中学教員）

	希望	条件付希望	希望しない
平日	7%	27%	66%
休日	7%	26%	67%

⑤休日の地域展開の取組みを知っている

中学生	24%
中学保護者	60%
中学教員	73%

【対応方針】

- ・スポーツと併せて、持続的、安定的な運営が担えるマネジメント人材の育成のための研修プログラムの提供
- ・県内4地区における連携協議会を開催し、近隣の市町村（地域）で連携できる体制づくりの支援

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 例) イ：指導者の質の保障・量の確保 / エ：面的・広域的な取組

取組事項 (イ)

- ・県の人材バンクである「リーダーバンクやまがた」の活用を促進させ、指導者を確保する。
- ・各市町村でも指導者を確保できるように指導助言する。

取組の成果 (イ)

- ・R5登録者数：3人
- ・R6登録者数：25人
- ・R7目標登録者数：35人

本年度は市町村・クラブ訪問や研修会において、「リーダーバンクやまがた」の周知活動を行うことで登録者数の増加につながった。しかし、利用者が指導を希望する種目や地域による指導者の人数に偏りがあり、指導需要を満たすためには、さらに登録者数を増やす必要がある。特に文化・芸術系の指導者の登録者が少ないので、周知の方法や対象者を検討していく。

今後の課題と対応方針

- ・県の人材バンクである「リーダーバンクやまがた」の活用を促進させ、指導者を確保する。
- ・県及び市町村の芸術文化協会等が集まる会議において、部活動改革に関する情報共有を行い、市町村における協会等との連携を促す。

取組事項 (エ)

運動部と合わせて、市町村のコーディネーターが意見交換、情報共有 等ができる場を設ける。

取組の成果 (エ)

令和6年12月に開催した庄内地区部活動改革情報交換会において、先行的な市町の取組みを共有するとともに、地区特有の課題や今後の方向性を協議した。具体的には、学校単位で活動することが困難な場合があるため、隣接する市町で連携（広域連携）する必要性、移動手段における町営バスの使用検討、指導者講習等による認証制度の検討、受益者負担や適正な指導者謝金に係る収支構造の検討について協議を行うことができた。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

部活動改革推進協議会も含めて、県芸術文化協会と連携し、指導者の確保と資質向上を図る。

取組の成果

令和6年7月に開催された山形県市町村芸術文化団体会長会議において、部活動改革に関する説明や地域展開に関する依頼等を行った。（右図説明資料一部）

また、令和7年2月に開催した部活動改革推進協議会において、今年度の成果と課題、次年度の方向性を協議する中で、文化芸術活動の地域展開に係る特有の課題を共有し、解決に向けた検討を行うことができた。

今後の課題と対応方針

- ・今年度と同様に、部活動改革推進協議会や文化芸術関係の会議等で、引き続き部活動改革の推進について共通理解を図る。
- ・県教育委員会と県関係部局、県芸術文化関係団体との連携等は進んでいるが、実際に地域展開に取り組む市町村単位での連携をより充実させる必要があるため、地区ごとの連携会議を開催し、顔の見える連携を進められるようにする。

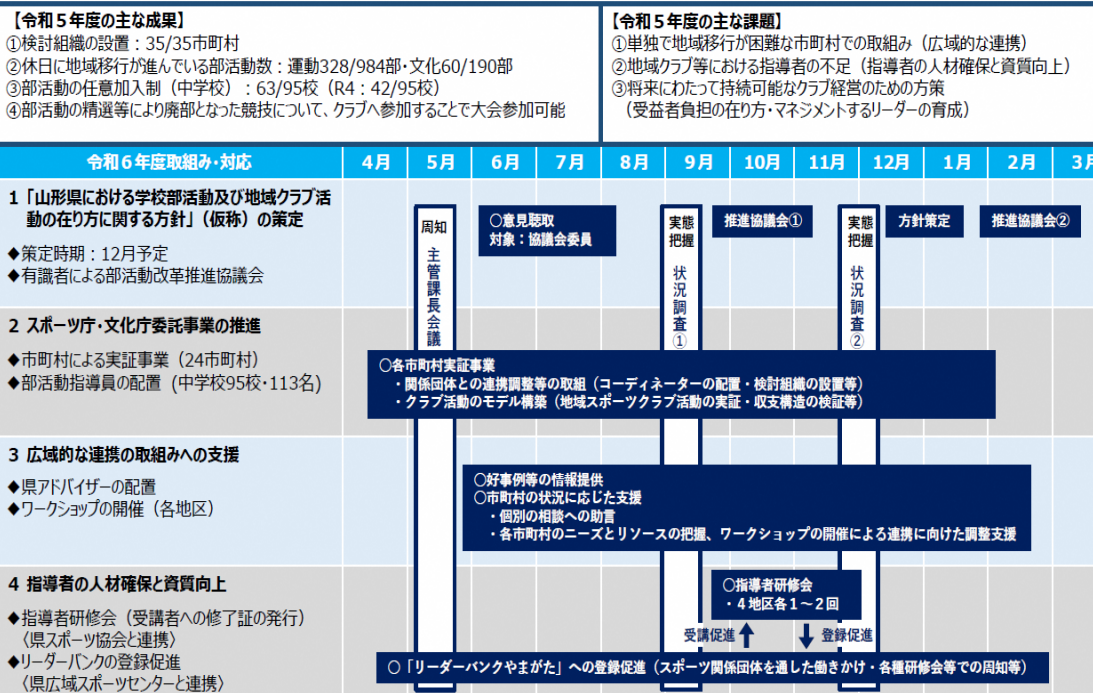
令和6年度 部活動改革における県教育委員会の取組み

目的

「生徒にとって望ましいスポーツ・文化芸術環境の構築」と「教員の働き方改革の推進」の両立
～中学校の休日の部活動を段階的に地域のクラブ活動に移行～【令和5年度～7年度：部活動改革推進期間】

背景

・近年、深刻な少子化が進行し中学校生徒数の減少が加速化するなど、部活動の持続可能な運営が困難
・競技経験のない教員が指導せざるを得なかったり、休日も含めた部活動の指導が求められたりするなど、教員にとって大きな業務負担



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

取組事項

- ・費用負担の在り方に関する調査を実施する。
- ・部活動改革推進会議で、市町村の現状を踏まえた検討を行い、市町村へ指導助言を行う。

取組の成果

山形県部活動改革推進協議会において、スポーツと文化芸術を含めて、山形県における地域展開の現状と課題、今後の方向性について検討した。山形県アドバイザーからも広域連携や地域クラブの認証制度、受益者負担やふるさと納税の活用等の財源の確保について助言を受けた。

令和6年12月に開催した庄内地区部活動改革情報交換会において、先行的な市町の取組みを共有するとともに、地区特有の課題や今後の方向性を協議した。具体的には、学校単位で活動することが困難な場合があるため、隣接する市町で連携（広域連携）する必要性、移動手段における町営バスの使用検討、指導者講習等による認証制度の検討、受益者負担や適正な指導者謝金に係る収支構造の検討について協議を行うことができた。

今後の課題と対応方針

- ・参加費用負担の取組みに関する市町村及び他県の情報を収集し、部活動改革推進会議（年2回）や県内4地区における連携協議会（年2回）等で情報交換し、市町村に合った取組みや県としてできる役割を検討する。

2.実証内容と成果①

総括・成果の評価・今後に向けて①

令和6年度の取組状況について

市町村における実証事業の推進	県アドバイザーの配置（3名）	指導者の人材確保と資質向上
◆地域と連携したクラブ活動を整備する取組みへの支援 スポーツ：24/35市町村 文化：5/35市町 ・関係団体との連携調整等の取組 （コーディネーター配置・検討組織の設置等） ・地域クラブ活動のモデル構築 （地域クラブ活動の実証・収支構造の検証） ・県事務局による市町村訪問（指導・助言） 21市町村 31回	◆ワークショップの開催 ・関係者の理解促進・課題の整理 ・広域連携の検討 ・他市町村との情報交換 ・4地区 合計7回 ◆市町村個別相談 9市町村 10回	◆指導者研修会の開催（受講者への修了証の発行） （県スポーツ協会と連携） ・スポーツハラスメント防止について ・スポーツ活動に係るリスクマネジメント ・スポーツ栄養マネジメント ・応急手当（実技：AED使用法、心肺蘇生法） ・開催：4地区 計6回 受講者：合計212名

市町村における取組状況

スポーツ活動の事例	文化活動の事例
<南陽市> ・スポーツ協会と連携して改革を推進 ・既存の体制を活用し、新たな価値を創出 <東根市> ・市が要件等を整備し、クラブの認証・設立支援 ・「部活動改革推進モデル校」を指定し教育課程検討	<山形市> ・生徒のニーズに応じた多様な豊かな体験機会の確保（吹奏楽・写真・囲碁等） ・楽器店等の企業との連携 <尾花沢市> ・市が任意団体設立「おぼなざわ未来クラブ」 ・生徒のニーズに応じた新たな活動の創出

南陽市柔道クラブ「子どもたちの思い・対話を一番に」

南陽柔道スポーツ少年団	幼児部（南陽柔道キッズ） 5名
R4年度～「宮内」「赤湯」「沖郷」の3つのスポ少が統合	小学部（南陽柔道スポ少） 30名
柔道を続けたいが柔道部がない	子どもたちのニーズに応え、意思確認をしながらクラブ化
他の部活動をしながら柔道を続けたい	中学部（南陽柔道クラブ） 18名
	強化部（部活主体） 競技部（クラブ主体）

活動内容

- 【多様なニーズへの対応】
- ◆クラブに所属しクラブで各大会に参加したい
 - ◆興味で柔道を楽しみたい
 - ◆柔道部に所属し更に競技力を高めたい
 - ◆柔道で子ども達と関わるボランティア
 - ◆他種目部活に所属し柔道も行いたい（大会参加は自由意志）



令和6年度の主な成果

- ◆35市町村全てにおいて、部活動の地域展開に取り組んでいる
- ◆県アドバイザーの配置により、市町村の部活動改革における理解度が深まった
- ◆市町村の部活動改革の取組みが着実に進められていることから、新たな課題が見えてきた
- ◆指導者における研修内容のニーズが把握できた

実態調査（R6.12.5～27）

①休日の地域展開に取り組んでいる部活動数（中学校）

	運動部	文化部
R6	533/943部（57%）	79/188部（42%）
R5	328/984部（33%）	60/193部（31%）

②地域クラブ活動の満足度（中学生）

満足	51%
やや満足	41%
合計	92%

③部活動の任意加入制（R6）

中学校	公立高校	私立高校
92%（66%）	83%（48%）	92%（92%）

④学校外活動における指導の希望（中学教員）

	希望	条件付希望	希望しない
平日	7%	27%	66%
休日	7%	26%	67%

⑤休日の地域展開の取組みを知っている

中学生	24%
中学保護者	60%
中学教員	73%

2.実証内容と成果①

総括・成果の評価・今後に向けて②



令和7年度 山形県の部活動改革について

部活動改革の目的

◇生徒にとって望ましいスポーツ・文化芸術環境の構築 ◇教員の働き方改革 【山形県における部活動改革のガイドライン(R5.3)】

令和6年度の実証(再掲)

- ◇市町村における実証事業の推進
- ◇県アドバイザーの配置
- ◇指導者の人材確保と資質向上

令和6年度の主な成果(再掲)

- ◇35市町村全てにおいて、地域展開の取組を実施
- ◇県アドバイザーの配置による、市町村の改革の理解度の深まり
- ◇改革を進めているからこそ見えてくる新たな課題の把握
- ◇指導者研修内容のニーズの把握

R6年度の山形県内の課題

- A 単独市町村内の活動における子どもたちの選択肢の限定
- B 指導者はもとより、クラブのマネジメントを担う運営者の人材確保
- C クラブ運営業務や施設使用に係る申請等の煩雑さ
- D 部活動改革の情報不足や誤認識による改革の機運の停滞

令和7年度の事業方向性

令和6年度から拡充する実施事業(案)

《市町村による実証事業》

- ◇関係団体との連携調整等の取組
 - ◆コーディネーター等の配置
 - ◆検討組織の設置
 - ◆スポーツ所管部署と学校体育(部活動)所管部署との連携体制の構築 等
- ◇クラブ活動のモデル構築
 - ◆地域スポーツクラブ活動の実証
 - ◆参加費用負担支援の実証 等

《市町村への支援事業》

- ◇県アドバイザーの配置(市町村への指導助言)
 - ◆制度設計の構築
 - ◆公的支援・受益者負担・企業資源のバランスの検証 等
- ◇ワークショップの開催
- ◇指導者の人材確保と資質向上の取組 等

令和7年度から新規実施事業(案)

持続的・安定的に運営できる体制の構築

《市町村による事業》

- A 複数市町村(地域)での連携モデルの検証
 - ◆共同実践におけるノウハウの共有 等
 - (例)移動手段確保・横断的な会員募集 等

C 運営効率化のためのシステムの検証

- ◆勤怠管理・出欠管理システムの試験導入
- ◆施設利用調整・施設管理システムの試験導入 等

新たなスポーツ・文化芸術活動の在り方についての意識の醸成

《市町村への支援事業》

- D 参加型シンポジウムの開催
 - ◆クラブ等による体験ブース
 - ◆有識者による講演 等
- D アスリートや専門家等による啓発活動
 - ◆アスリートによる講話や体験活動 等
- D 部活動改革情報の発信
 - ◆WEB媒体を活用した発信 等

手立て

- ◇企業・団体・行政・学校等が連携して課題解決を図る
- ◇プロジェクト型事業として行いノウハウの蓄積と共有を図る
- ◇アドバイザーによる指導・助言や情報交換会(勉強会)の開催等による市町村支援を行い、県全体の一体的推進を図る

改革推進のスケジュールイメージ

改革推進期間	R5	◆改革を進めるための体制整備をする 【◇検討組織の設置 ◇コーディネーター(キーパーソン)の配置 等】
	R6	◆実際に活動し検証をする 【◇地域クラブ活動の実証 ◇収支構造の検証 等】
	R7	◆持続可能な環境のための制度設計をする 意識の醸成を図る 【◇方針(計画)づくり ◇仕組み(システム)づくり 等】
改革実行期間	R8~R10 改革実行期間(前期)	
	中間評価	
	R11~R13 改革実行期間(後期)	

2.実証内容と成果



地域文化クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

改革推進のスケジュールイメージ

改革推進期間	R5	◆改革を進めるための体制整備をする 【◇検討組織の設置 ◇コーディネーター（キーパーソン）の配置 等】		
	R6	◆実際に活動し検証をする 【◇地域クラブ活動の実証 ◇収支構造の検証 等】		
	R7	◆持続可能な環境のための制度設計をする 意識の醸成を図る【◇方針（計画）・仕組み（システム）づくり 等】		
改革実行期間	R8～R10 改革実行期間（前期）		中間評価	R11～R13 改革実行期間（後期）
手立て	◇ 企業・団体・行政・学校等が連携して課題解決を図る ◇ プロジェクト型事業として行いノウハウの蓄積と共有を図る ◇ アドバイザーによる指導・助言や情報交換会（勉強会）の開催等による市町村支援を行い、県全体の一体的推進を図る			

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

令和7年度 山形県の部活動改革について

部活動改革の目的

◇生徒にとって望ましいスポーツ・文化芸術環境の構築 ◇教員の働き方改革 【山形県における部活動改革のガイドライン(R5.3)】

令和6年度の実証(再掲)

- ◇ 市町村における実証事業の推進
- ◇ 県アドバイザーの配置
- ◇ 指導者の人材確保と資質向上

令和6年度の実証(再掲)

- ◇ 35市町村全てにおいて、地域展開の取組を実施
- ◇ 県アドバイザーの配置による、市町村の改革の理解度の深まり
- ◇ 改革を進めているからこそ見えてくる新たな課題の把握
- ◇ 指導者研修内容のニーズの把握

R6年度の山形県内の課題

- A 単独市町村内の活動における子どもたちの選択肢の限定
- B 指導者はもとより、クラブのマネジメントを担う運営者の人材確保
- C クラブ運営業務や施設使用に係る申請等の煩雑さ
- D 部活動改革の情報不足や誤認識による改革の機運の停滞

令和7年度の事業方向性

令和6年度から拡充する実施事業(案)

《市町村による実証事業》

- ◇ 関係団体との連携調整等の取組
 - ◆コーディネーター等の配置
 - ◆検討組織の設置
 - ◆スポーツ所管部署と学校体育(部活動)所管部署との連携体制の構築 等
- ◇ クラブ活動のモデル構築
 - ◆地域スポーツクラブ活動の実証
 - ◆参加費用負担支援の実証 等

《市町村への支援事業》

- ◇ 県アドバイザーの配置(市町村への指導助言)
 - ◆制度設計の構築
 - ◆公的支援・受益者負担・企業資源のバランスの検証 等
- ◇ ワークショップの開催
- ◇ 指導者の人材確保と資質向上の取組 等

令和7年度から新規実施事業(案)

持続的・安定的に運営できる体制の構築

《市町村による事業》

- A 複数市町村(地域)での連携モデルの検証
 - ◆共同実践におけるノウハウの共有 等
 - (例) 移動手段確保・横断的な会員募集 等
- C 運営効率化のためのシステムの検証
 - ◆勤怠管理・出欠管理システムの試験導入
 - ◆施設利用調整・施設管理システムの試験導入 等

《市町村への支援事業》

- B 持続的・安定的な運営が担えるマネジメント人材の育成
 - ◆専門家による研修プログラムの提供
 - ◆メンターによる伴走型支援 等

新たなスポーツ・文化芸術活動の在り方についての意識の醸成

《市町村への支援事業》

- D 参加型シンポジウムの開催
 - ◆クラブ等による体験ブース
 - ◆有識者による講演 等
- D アスリートや専門家等による啓発活動
 - ◆アスリートによる講話や体験活動 等
- D 部活動改革情報の発信
 - ◆WEB媒体を活用した発信 等

- 手立て
- ◇ 企業・団体・行政・学校等が連携して課題解決を図る
 - ◇ プロジェクト型事業として行いノウハウの蓄積と共有を図る
 - ◇ アドバイザーによる指導・助言や情報交換会(勉強会)の開催等による市町村支援を行い、県全体の一体的推進を図る

改革推進のスケジュールイメージ

改革推進期間	R5	◆改革を進めるための体制整備をする 【◇検討組織の設置 ◇コーディネーター(キーパーソン)の配置 等】
	R6	◆実際に活動し検証をする 【◇地域クラブ活動の実証 ◇収支構造の検証 等】
	R7	◆持続可能な環境のための制度設計をする 意識の醸成を図る 【◇方針(計画)づくり ◇仕組み(システム)づくり 等】
改革実行期間	R8~R10 改革実行期間(前期)	
	中間評価	
	R11~R13 改革実行期間(後期)	

令和6年度

文化部活動改革（部活動の地域に向けた実証事業等）

地域文化クラブ活動への移行に向けた実証事業

山形県山形市

自治体名：山形県山形市

担当課名：部活動地域移行連携室

電話番号：023-641-1212（内線925）

1.自治体の基本情報



基本情報

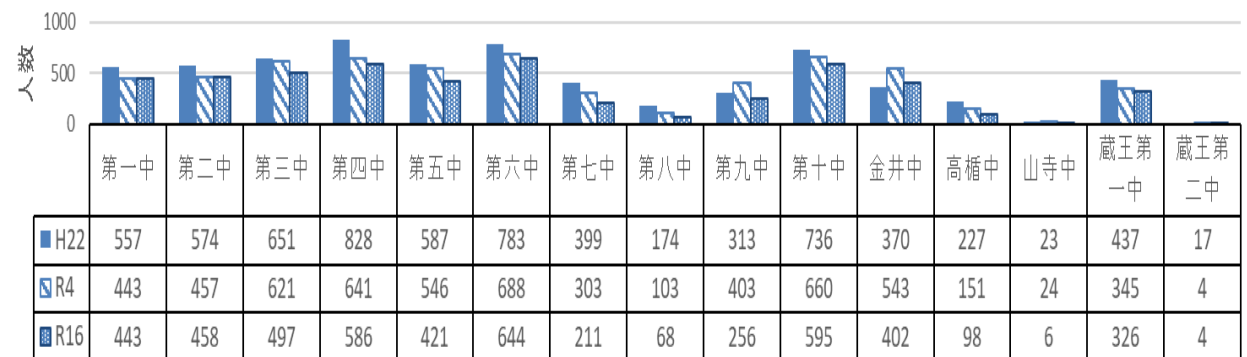
面積	381.58 km ²
人口	239,986 人
公立中学校数	15 校
公立中学校生徒数	5,780 人
部活動数	39 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定作業中

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

本市の、中学校の生徒数は、令和6年4月時点で約5,800人であるが、10年後には約5,000人と推測され、約800人の生徒が減少する見通しとなっている。現在、15校の市立中学校において、文化部は39部活約1,100人が活動しているが、運動部活動と比較すると全体的に部活動数が少なく、学校によっては文化部自体がないため多様な文化芸術の選択が難しい現状にある。団体種目の吹奏楽部では、人口減少に伴い単独でチーム編成ができない学校が生じている。

また、令和8年度から全ての市立中学校において、部活動の任意加入制の導入を予定しており、部員数や所属率の更なる減少が想定されることから、多様な文化芸術を選択することができ活動できる場の創出が必要である。

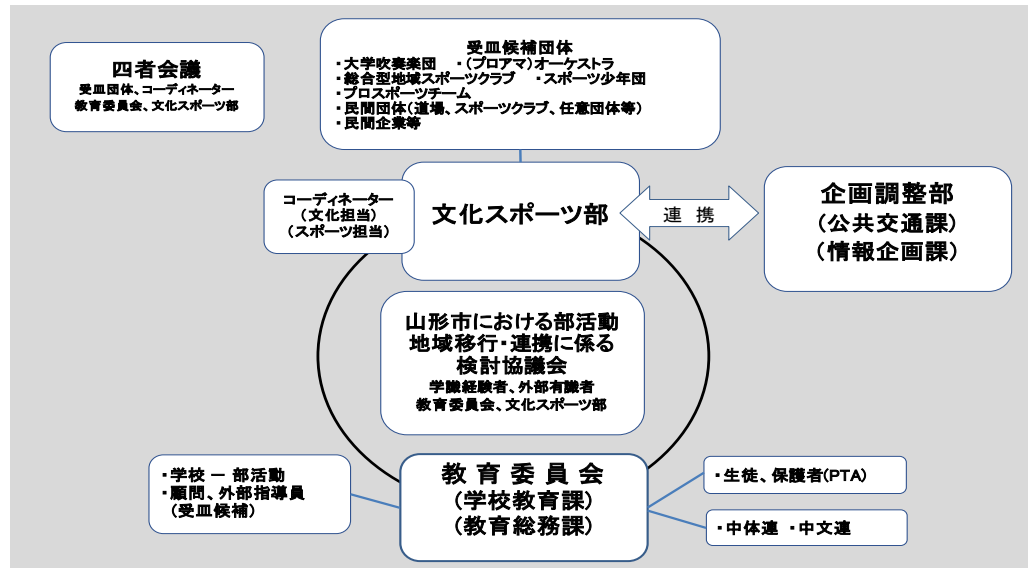
山形市立中学校別全校児童生徒の推移(生徒数)



2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・学校、部活動、顧問、部活動外部指導者、生徒、保護者との調整及び広報
- ・小中学校校長会への情報提供
- ・部活動指導員の配置計画 など

◎首長部局

- ・(仮称) 山形市部活動地域移行・地域連携推進計画の検討
- ・山形市における部活動の地域移行・地域連携検討協議会の運営
- ・地域クラブに関する助言、コーディネート など

年間の事業スケジュール

令和6年4月	コーディネーターの配置 実証事業参加団体の調整
令和6年5月	学校長との意見交換（個別） 関係団体との意見交換
令和6年6月	実証事業開始（順次）
令和6年7月	第1回検討協議会の開催 実証事業活動視察（順次）
令和6年8月	市議会勉強会の実施
令和6年9月	PTA連合会との意見交換
令和6年10月	推進計画骨子案の検討
令和6年11月	推進計画骨子案作成
令和6年12月	実証事業完了（一部を除く）
令和7年1月	第2回検討協議会の開催
令和7年2月	実証事業の検証、課題整理 次年度の検討

2.実証内容と成果

地域文化クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	15校	実施した地域クラブ総数	6クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		0クラブ（0部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		6クラブ
全体の指導者数	29人	全体の運営スタッフ数	7人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体 種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
山形県美術連盟山形地区	地域の文化団体	美術（新）	月1～2回（休日）	午前	1年生3人	10～12月	小学校多目的ホール	1人	1人	1,000円	－
マン・クリエイト	民間事業者	写真	3回（休日）	午前	1年生4人	9月	民間施設 公共施設	1人	－	1,000円	－
やまがたジュニアコーラス	地域の文化団体	合唱（新）	月1～2回（休日）	午前	1年生3人 3年生1人	8～11月	県民・市民ホール	3人	－	3,000円	－

2.実証内容と成果

地域文化クラブ活動の運営実績

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体 種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
日本棋院 山形県支部連合会	地域の文化団体	囲碁（新）	月 2回 (休日)	午前	1年生 2人 2年生 1人	11～12月	公民館	1人	2人	1,000円	－
富岡本店	民間事業者	吹奏楽	月 2～3回 (休日)	午前	1年生 1人 2年生 1人	10～11月	公共施設	19人	1人	2,500円	－
奥の細道 マイスターの会	地域の文化団体	俳句（新）	月 1回 (休日)	午前	1年生 5人 2年生 6人 3年生 6人	12～1月	公共施設	4人	3人	500円	－

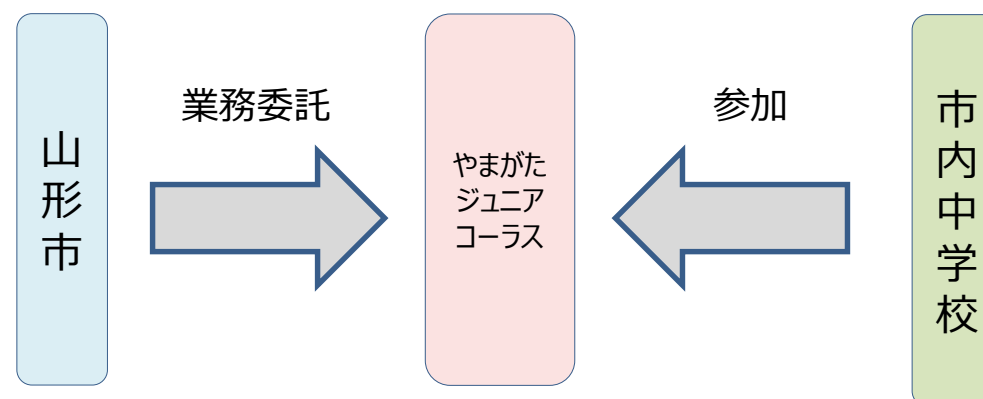
2.実証内容と成果

主な取組例

●やまがたジュニアコーラス 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	合唱
運営団体名	やまがたジュニアコーラス
期間と日数	8月～11月 計6日
指導者の主な属性	県合唱連盟 元教員
活動場所	公共施設（県民ホール等）
主な移動手段	保護者の送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	3,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 統括責任者
役割：市との窓口、参加者や会場等の調整全般
- 指導者 3名
役割：パート練習や合奏練習の指導、発表会の指揮者・ピアノ演奏等

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

休日の部活動の地域移行・地域連携に向け、コーディネーターを配置することにより、文化芸術団体等の調整、指導者の確保、参加費用負担等への支援について総合的に推進。

また、令和5年度に立ち上げた検討協議会で外部の意見を取り上げつつ、モデル事業の拡充を図り、実施状況を検証しながら、成果と課題を整理していく。

取組の成果

・文化担当のコーディネーター1名を常勤で配置。教員OBのコーディネーターを配置したことにより、学校及び関係団体等との連絡調整を円滑に行うことができた。

・検討協議会を年2回開催。協議会の構成員を有識者及び学校関係者等に依頼したことにより、他自治体の現状や学校現場等の率直な意見を聴取し、課題の整理につなげることができた。

No.	検討協議会構成員	
1	学識経験者	大学関係者
2	学識経験者	大学関係者
3	学識経験者	大学関係者
4	学識経験者	大学関係者
5	学識経験者	(公財)山形県スポーツ協会
6	関係団体	(公財)山形市スポーツ協会
7	関係団体	山形市芸術文化協会
8	PTA	山形市PTA連合会
9	校長会	山形市中学校長会
10	中体連	山形市中学校体育連盟
11	中文連	山形市中学校文化連盟
12	市職員	山形市教育委員会
13	市職員	山形市教育委員会
14	市職員	山形市文化スポーツ部

コーディネーターの具体的な動きの実績

- ・市内全中学校を訪問し、現状の把握と課題の整理に努めた。
- ・中学校校長会に出席し、部活動改革の取組み等を説明しながら、学校現場の協力を依頼した。
- ・PTA連合会にて部活動改革の説明を行い、保護者の理解を深めた。

今後の課題と対応方針

- ・既存部活動を移行していく実施主体（特に吹奏楽）が確立できていないため、今後、関係団体などと緊密な連携に努める。
- ・令和7年度中に部活動地域移行推進計画を策定予定。課題と対応策を明記し、周知を図っていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

専門性が高い指導ができることに加え、教育的な視点からも指導できる文化芸術団体や事業者を選定していく。

取組の成果

プロフェッショナルな技術を有している指導者やその分野に精通している方々の所属団体を受皿団体として、技術力の向上や見識を深める活動を実施できた。また、指導者として元教員を採用することで教育的意義の継承を図った。

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

文化部活動がない中学校や単独での活動が実施困難な学校もあるなか、市内全中学校を対象とすることで広く文化活動に参加する機会を創出する。

取組の成果

文化活動の選択肢が増え、異なる中学校の生徒が参加したことで交流も生まれ、新たな居場所に繋がる取組となった。

●取組項目名 ク：その他の取組

取組事項

生徒の成長などがわかるよう成果発表の場を設ける。また、移動手段の確保として、公共交通の担当部署と連携を図り、参加しやすくなるよう検討していく。

取組の成果

成果発表したことで生徒が自信を持つことができ、また、保護者にとって子どもの成長を感じられる良い取組となった。移動手段については、庁内会議を行うとともに令和7年度に策定する計画において引き続き検討することとした。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

令和5年度に構築した関係団体との連携を継続し、発展的に広げていながら、様々な文化芸術団体と意見を交わしながら各分野の振興についても検討する。

取組の成果

昨年度から引き続き、年齢や感覚も近い世代の山形大学吹奏楽団の学生達が指導者となることで、未経験者も活動しやすい環境が生まれ、生徒も活気溢れる活動ができた。

指導者である学生、特に教育学部に籍を置く学生にとっては生徒指導の機会を得られる貴重な経験の場にもなった。

活動風景



今後の課題と対応方針

・今年度の実証事業は全学校型であったことから、次年度は既存の吹奏楽部の地域移行を目指したモデルケースを実施していきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

取組事項

既存の部活動にない多彩な文化芸術活動に触れる機会を創出する。

活動の詳細			
参加人数	17人	指導者数	4人
属性	俳句（奥の細道マイスターの会）		
具体的な内容	・山寺の自然や風景を肌で感じ、その想いを俳句で表現することで俳句の魅力を感じる。 ・チームで俳句を披露し、互いに意見や感想をディベートすることで、柔軟な創造力やしなやかな感受性を育む。		
子供の声	● 限られた字数で詠むことや、相手に情景を連想してもらう大変さが難しくもあり面白い。 ● 互いに質問し意見をぶつけ合うバトル形式が新鮮だった。 ● 同じ一句でも、捉え方が人によって全く異なることに、言葉の深みを感じた。		
関係者の声	● 若者の新鮮な発想に驚きを覚えた。 ● 国語の授業とも違った学びの場であった。		
運営経費	人件費 6.8万円 講師謝礼 4.6万円 借損料 0.4万円 など		

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

取組事項

部費の取り扱いなどを参考にしながら参加者の負担が過度にならないよう検討していく。

地域クラブに係る経費

■参加者負担について（実績の一部）

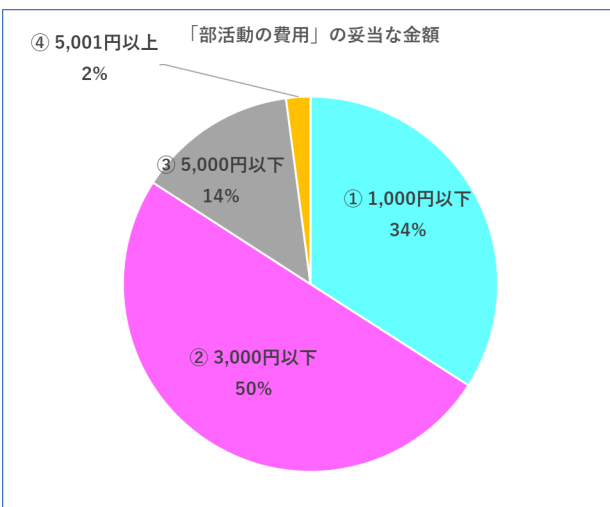
- ・囲碁 1,000円/全4回
- ・合唱 3,000円/全6回
- ・写真 1,000円/1回につき

受益者負担として、「保険料」・「会場使用料」などを考慮し現在の部活動費と大きな隔たりがないよう、実施団体の配慮も見受けられた。

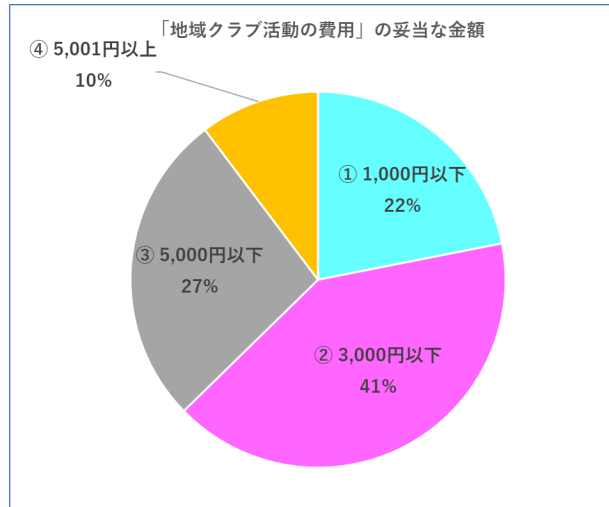
部活動地域移行・地域連携に関する意識調査

中学1・2年生保護者対象

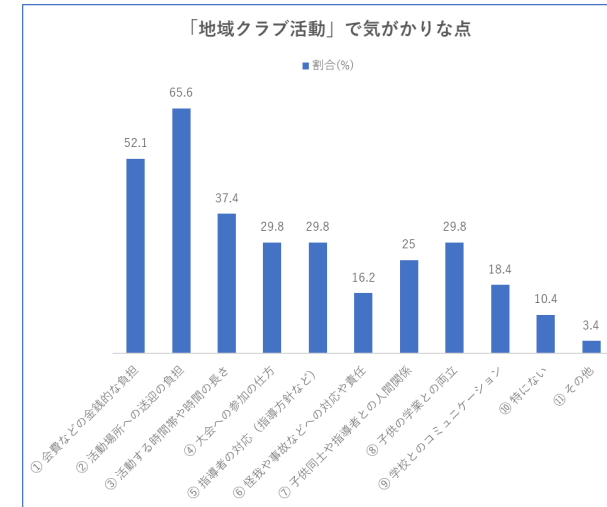
Q.「学校の部活動」に参加させる場合、毎月の会費等の費用として妥当な金額はどれくらいと考えますか。



Q.「地域クラブ活動」に参加させる場合、毎月の会費等の費用として妥当な金額はどれくらいと考えますか。



Q.「地域クラブ活動」を行う上で、気がかりな点はどうのことでしょう。



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

活動にふさわしい場所であるとともに、経費削減につながる場所、参加しやすい場所といった視点で適切な活動場所を確保していく。

取組の成果

美術クラブでは、どの中学校からでも比較的参加しやすく無償で借りられる場所に焦点を当て、施設開放している市内中心地の小学校を活動場所を選定した。学校を利用することは、生徒の安全性を確保でき、保護者にとっても会場使用料など経済的負担を抑えられた。

今後の課題と対応方針

部活動にはない文化芸術活動を実施したこともあり、学校や公民館等の施設以外で実施したクラブ活動では、場所の確保や割高な施設使用料の発生が生じた。今後、学校やコミュニティセンターなどを中心に利活用の協力体制を築くことで、受益者負担の低廉化、実施主体の持続可能な運営に繋がると考える。

2.実証内容と成果①

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

中学校の休日における部活動地域移行・地域連携に向けた取組みを以下のとおり実施した。

◆実証事業の実施

文化芸術団体や民間事業者、地元大学などの協力を得ながら6活動を実施。

◆検討協議会の開催

スポーツ・文化に精通した有識者や学校関係者等で組織された協議会を年2回開催し、今後の在り方について検討した。

◆関係団体との協議

文化芸術団体や運営組織、学校関係者と連携を図り、休日における地域クラブ活動の目指すべき姿や方向性について協議した。

◆コーディネーターの配置

中学校長経験者を文化担当のコーディネーターとして配置し、主に学校との調整や状況調査を行った。

●成果の評価

- ◆実証事業では、既存の部活動にはない文化芸術活動を実施したことで、多様な選択肢を提供でき、生徒の新たな可能性や活動の幅を広げることができた。
- ◆検討協議会では、多岐にわたる分野の有識者からの意見や課題を情報共有することで、今後の在り方について共通認識を持つことができた。
- ◆受皿団体と学校側からそれぞれの視点で協議することで、より現実かつ具体的なクリアすべき課題が見えてきた。
- ◆コーディネーターが調整役となることで、学校と市や文化芸術団体との調整が円滑に進めることができた。

●今後に向けて

- 様々なクリアすべき課題を、検討協議会や関係各所との意見交換を踏まえ、令和7年度策定予定の推進計画において今後示す必要がある、
- ・活動場所の継続的な確保
 - ・生徒の移動手段
 - ・適切な受益者負担額の設定
 - ・楽器の運搬（吹奏楽）
 - ・実施主体の持続可能な運営体制 など・・・

2.実証内容と成果②

参加者・保護者の声

【美術】

参加者	保護者
●とても楽しかったので、また参加したい。 ●塗り方の種類や例となる絵を見せていただいて、最後の不透明水彩では、自分の納得いく作品に仕上げることができた。 ●クロッキーからデッサン、水彩画まで、それぞれのポイントやコツまで、丁寧に教えていただきありがとうございました。	●レッスンの回数を重ねるごとにドンドン上手になっていくのが見ていてわかり、とても良い経験をさせていただいたと思います。 ●貴重な機会をいただき、ありがとうございました。 ●最終日に展覧会を開いてもらい、みんなの成果をみて、すごく身についていると思いました。

【合唱】

参加者	保護者
●男女問わず色々な学校、学年の合唱好きなお友達と知り合えて活動日が楽しみだった。 ●お母さんと一緒に練習や発表ができて嬉しかった。 ●学校の部活動が任意加入になったので、市中総体など関係なく春先から活動してほしい。 ●発表会があって、友達、家族を感動させられるような合唱ができて良かった。 ●合唱部がなかったから諦めていたけれどジュニアコーラスがあり、合唱がもっと楽しくなった。	●親子で聴きながら練習したりとにかく話題が増えた。 ●中学生だけの募集ではなく、小学生や高校生も参加できると有り難い。 ●土曜日の午前中は部活があるので、中学生は集まりにくかった ●学校の垣根を越えた仲間との交流も魅力的だった。前後期に分けて募集すればシーズンオフのスポーツの子にも届きやすい。

2.実証内容と成果③

広報資料

地域文化クラブ活動への移行に向けたモデル事業

クラブ活動参加者大募集!

山形市では、部活動が地域と連携して取り組める形を検証するため、令和5年度からモデル事業を実施し、令和6年度はさらに事業を拡充していきます。
経験したことのない活動に新たにチャレンジしたい!興味はあったけど活動する機会がなかった!など、関心のある中学生の参加者を大募集します。
興味のある方は、それぞれの活動の問い合わせ先や申込方法(2次元コード等)により、ぜひお気軽にお申し込みください!

写真

対象者 中学1~3年生
日程 2024年 9月14日(土)/15日(日)/16日(月・祝)
時間 各日 午前9時30分~12時
定員 各日 先着7名(定員になり次第受付終了いたします)
場所 旧吉地医院(十日町2-4-16)
参加費 1回 1,000円(参加日当日にご持参ください)
持ち物 デジタルカメラ、筆記用具
※デジタルカメラをお持ちでない方は、こちらで準備しますので、ご相談ください
講師 佐藤 直記(有限会社マン・クリエイティブ 代表取締役)
活動内容 撮影方法を楽しみながら自分の想いを自由に表現し、地域の魅力を再発見しよう!!

申込み・お問い合わせ先 下記、部活動地域移行連携室までご連絡ください
(主催) 有限会社マン・クリエイティブ

吹奏楽

対象者 中学1~2年生 ※未経験者歓迎
日程 2024年 ① 10/5 (土) 午前9時~12時 富岡本店(山形市七日町2丁目1-8)
② 10/12 (土) 午前9時~12時 山形大学内(山形市小日川町1丁目4-12)
③ 11/2 (土) 午前9時~12時 富岡本店(山形市七日町2丁目1-8)
④ 11/16 (土) 午前9時~12時 (未定)
⑤ 11/30 (土) 午前9時~12時 (未定)
参加費 1回 500円(ただし、保険加入のため、初回参加時に別途800円を徴収します)
演奏楽器 【木管】B♭クラリネット/サクソ(アルト・テナー) 定員…計5名
【金管】トランペット/ホルン/トロンボーン 定員…計5名
持ち物 演奏する楽器(お持ちでない方には、貸出します)
活動内容 パート練習や合奏練習を重ね、最後は山形大学吹奏楽団と演奏する楽しさを体験できる発表会を行います!

お問い合わせ先 (主催) 株式会社 富岡本店 担当: 江口
023-641-0644 t-eguchi@tomiooka.co.jp

申込み先 (主催) 有限会社マン・クリエイティブ

※使用している写真はイメージです

囲碁

対象者 中学1~2年生 ※未経験者歓迎
活動期間 2024年 9月~12月(予定)
日程 ① 期間内の平日(月~金)夕方~ 計5回 {日程の詳細は後日お知らせします}
② 期間内の土・日・祝 午後~ 計5回
定員 ①② 各 20名
場所 山形テルサ(山形市双葉町1丁目2-3)
公民館等(予定)
参加費 ①② 各1,000円
活動内容 ルール説明から対局まで、囲碁の楽しさに触れよう!

仮申込み・お問い合わせ先
(主催) 日本棋院山形県支部連合会(山形県幕連)
yamagatakengoren@gmail.com

QRコード又はメールアドレス宛に仮申込みをお願いします
仮申込みをいただいた連絡先に後日、詳細をご連絡します

俳句

対象者 中学1~3年生
日程 2024年 ① 9/1 (日) 午前9時30分~12時 霞城セントラル23階
(山形市城町1丁目1-1)
② 10/5 (土) 午前9時30分~12時 立石寺/山寺芭蕉記念館
(山形市山寺4456-1/山寺4223)
③ 11/2 (土) 午前9時30分~12時 山寺芭蕉記念館(山形市山寺4223)
④ 11/23 (土) 午前9時30分~12時 山寺芭蕉記念館(山形市山寺4223)
⑤ 12/7 (土) 午前9時30分~12時 山寺芭蕉記念館(山形市山寺4223)
参加費 500円(全5回) ※初回参加時にご持参ください
持ち物 筆記用具
活動内容 基礎を学び、実際の景勝地へ向けて、俳句の楽しさや奥深さを知ろう!完成作品は山寺芭蕉記念館に展示します!!

申込み・お問い合わせ先 下記、部活動地域移行連携室までご連絡ください
(主催) 奥の細道マイスターの会

合唱

対象者 中学1~3年生
日程 2024年 ① 8/31 (土) 午前9時~12時 やまぎんホール 練習室1
(山形市双葉町1-2-38)
② 9/23 (月・祝) 午前9時~12時 やまぎんホール 練習室1
(山形市双葉町1-2-38)
③ 10/26 (土) 午前9時~12時 やまぎんホール スタジオ1
(山形市双葉町1-2-38)
④ 11/2 (土) 午前9時~12時 山形テルサ リハーサル室
(山形市双葉町1丁目2-3)
⑤ 11/23 (土) 午前9時~12時 山形テルサ リハーサル室
(山形市双葉町1丁目2-3)
⑥ 11/30 (土) 午前9時~11時 やまぎんホール スタジオ1
(山形市双葉町1-2-38)
発表会 11/30 (土) 午前11時~12時 やまぎんホール スタジオ1(山形市双葉町1-2-38)
参加費 3,000円(全6回) ※初回参加時にご持参ください
持ち物 筆記用具、学校で使用している合唱曲集(心のコース等)
活動内容 練習を重ね、最終日はみんなで楽しくステージ発表します!

申込み・お問い合わせ先 下記、部活動地域移行連携室までご連絡ください
(主催) やまがたジュニアコーラス

※使用している写真はイメージです

【生徒への参加啓発チラシ】

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【合唱（発表会）】



【美術（レッスン）】



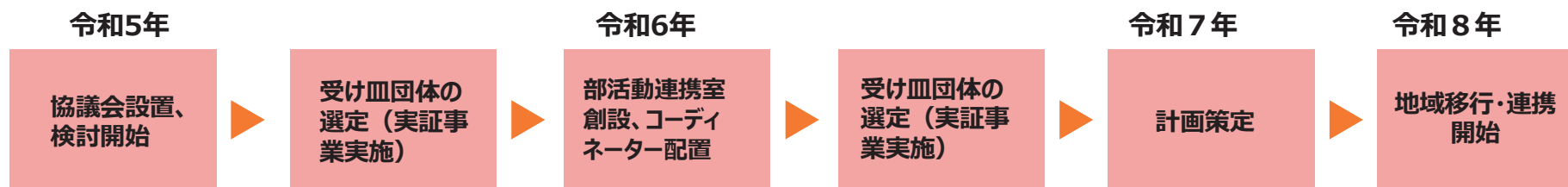
【俳句（ディベート）】



【吹奏楽（練習）】

2.実証内容と成果

地域文化クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



ステークホルダー

学校、文化芸術団体、民間事業者、市長部局、市教委

経過

令和5年度より検討委員会を設置し、山形市における地域移行・地域連携について検討を開始した。令和6年度は、市長部局に「部活動地域移行連携室」を設置するとともに、学校長経験者のコーディネーターを常勤で配置し、教育委員会と緊密な連携のもと、検討協議会や関係団体等との協議を深めながら取組みを進めている。

実施内容

令和6年度は、実証事業の活動数を6活動に拡充し実施した。（令和5年度は3活動）既存部活動にはない新たな文化芸術活動の実証事業も行った。

また、学校関係者や関係団体と密に協議を行い、推進計画の骨子案を作成し、令和7年度の本格的な策定に向け準備を整えた。

実施にあたって生じた課題

実証事業では、活動場所の確保や移動手段、参加人数の少なさ等の指摘が多かった。また、推進計画において様々な支援策を検討していくことになるが、市としての財源の確保なども大きな課題として考えられている。

今後の展開

令和7年度も関係者等との協議を深めながら、12月までに「（仮称）部活動地域移行・地域連携推進計画」を策定し、令和8年1～3月にかけて、学校や関係団体等に周知していくことで計画している。令和8年度の本格的な地域移行に向けて、地域クラブのあり方や移行スケジュールなどを明確にしていくとともに、地域クラブで活動している団体の情報の収集を徹底し、市民に情報を発信できるよう取り組んでいく。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

【予定】	2023 令和5	2024 令和6	2025 令和7	2026 令和8	2027 令和9	2028 令和10	2029 令和11	2030 令和12	2031 令和13
市 山形市発展計画	山形市発展計画2025			(仮称) 新 山形市発展計画2030					
市 文化創造都市推進基本計画	創造的活動の担い手の育成及び支援								
市 山形市スポーツ推進計画2028	休日の部活動の段階的な地域移行								
市 山形市における部活動の方針	生徒にとって望ましいスポーツ、文化環境を目指して ※状況に応じて必要な見直しを行う								
市 部活動地域移行・地域連携推進計画	調査・研究 骨子案		策 定		(仮称) 山形市部活動地域移行・地域連携推進計画 計画期間 令和8年度より令和13年度（5年間） ※本市の状況や国・県の情勢を踏まえながら、必要な見直しを行う				
市 部活動地域移行に向けた実証事業	四者会議、相談と助言								
	山形市における検討協議会								
	委託事業			(仮称) 山形市部活動地域移行・地域連携推進計画に基づく施策等					



令和6年度

文化部活動改革（部活動の地域に向けた実証事業等）

地域文化クラブ活動への移行に向けた実証事業

山形県尾花沢市

自治体名：山形県尾花沢市

担当課名：教育委員会こども教育課 教育指導室

電話番号：0237-23-3330

1.自治体の基本情報



基本情報

面積	372.53 km ²
人口	13,660 人
公立中学校数	2 校
公立中学校生徒数	298 人
部活動数	15 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	尾花沢市学校部活動の地域連携・地域移行支援協議会の設置
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	中学校部活動等に関する基本方針の策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

■尾花沢市の現状

市の人口減少とともに中学生生徒数も減少傾向にあり、令和6年度298人、令和10年度279人、令和13年度には221人まで減少する見込みである。また、令和8年度には、2校の中学校が統合し1校になる予定で生徒交流を行っている。

現在、2校では週3回の部活動を実施しており令和6年度から任意加入制度及び休日活動の完全地域移行に向け、取り組んでいる。

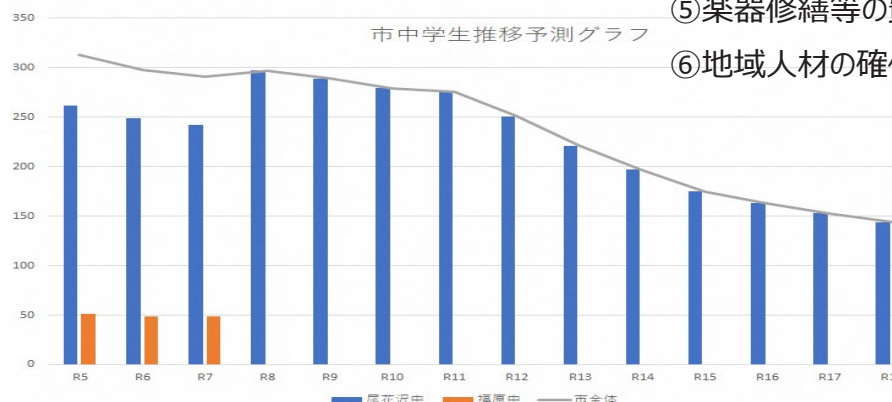
また顧問2名体制で指導を行っているが、顧問は吹奏楽経験者ではないため、楽団音楽家から指導を受けている。

■尾花沢市の課題

本市地勢は地の東部および南北地域は奥羽山脈に連なる起伏に富んだ山地、北西部は出羽丘陵の山並みが連なっており、公共交通については、都市部とのサービス水準格差が大きい。

部活動の活動費については、学校によって負担の在り方や種目によつての費用負担に大きな違いがあり、さらに地域活動での負担が上乗せになり費用確保も大きな課題となっている。

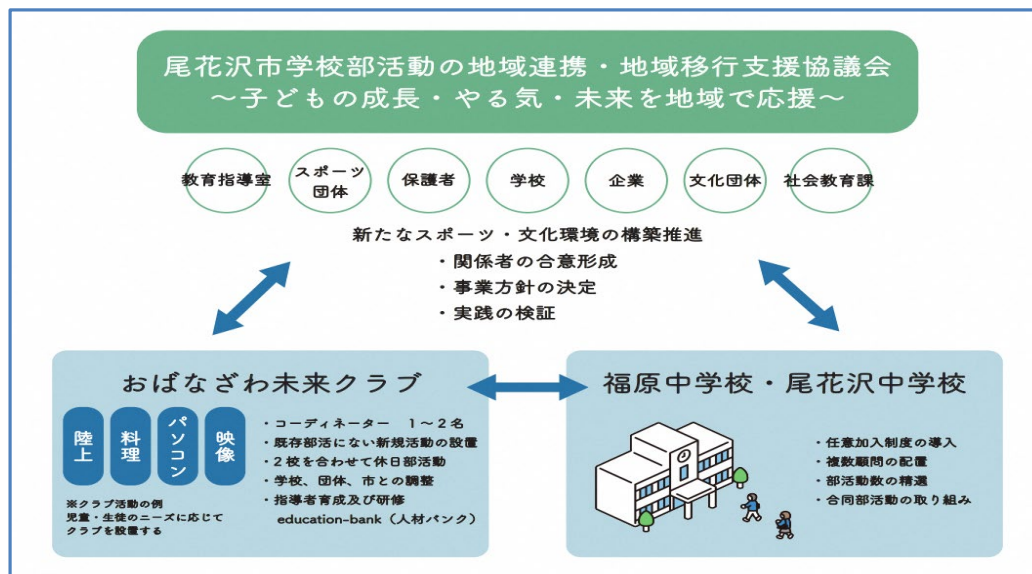
- ①山間部における生徒の移動手段の確保
- ②持続可能なクラブ運営のための経済負担増
- ③地域支援体制の整備
- ④吹奏楽部と地域活動クラブとの楽器共有
- ⑤楽器修繕等の費用負担
- ⑥地域人材の確保



2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ①学校部活動の地域連携・地域移行支援協議会の運営
- ②おばなざわ未来クラブの設立及び地域人材の確保
- ③任意加入制度の導入及び生徒意向調査（新たな活動の場の創出）
- ④スクールバスの運行

◎首長部局 市全体での支援体制支援

- ①部活動改革に係る行政施設の無償化と調整
- ②教育委員会及び学校との連携・調整

年間の事業スケジュール

令和6年4月

- ・「おばなざわ未来クラブ」設立及び活動開始
- ・おばなざわ未来クラブ加入説明会
- ・PTA総会説明会
- ・申込受付開始

令和6年5月

- ・スクールバス調整
- ・文化活動状況調査
- ・北村山高等学校調整会議
- ・市内音楽家及び事業所連携会議

令和6年7月

- ・学校部活動の地域連携・地域移行支援協議会
- ・文化新規活動企画及び協力企業調整
- ・北村山高等学校調整会議
- ・新規クラブ立ち上げのための調整会議

令和6年9月、10月

- ・新規クラブトライアル実施
- ・北村山高等学校楽器賃貸契約締結
- ・楽器搬出、搬入及び修繕開始
- ・中学校との調整会議

令和6年11月、12月

- ・新規クラブトライアル実施
- ・おばなざわ音楽クラブ設立

令和7年1月

- ・中学生生活動実態調査

2.実証内容と成果



地域文化クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	2 校	実施した地域クラブ総数	2 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		吹奏楽 クラブ（吹奏楽 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		おばなざわ音 クラブ
全体の指導者数	1 6 人	全体の運営スタッフ数	9 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
吹奏楽クラブ		吹奏楽	週 2 回	土曜日：午前 木曜日：19時	3 年 10名 2 年 8名 1 年 4名	通年	中学校体育館	1人	3 人 （内、兼務0人）	年会費 48,000円	吹奏楽コンクール：部活動
おばなざわ音楽クラブ		音楽	週 1 回	木曜日：19時	中学生 2 名 高校生 1 名 大人5名	通年	尾花沢市文化体育施設	15 人	3 人 （内、兼務0人）	未定	大会参加なし

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- おばなざわ音楽クラブ：市内保育園クリスマスコンサート開催 吹奏楽クラブ：おばなざわ祭り パレード協力、自主コンサート開催

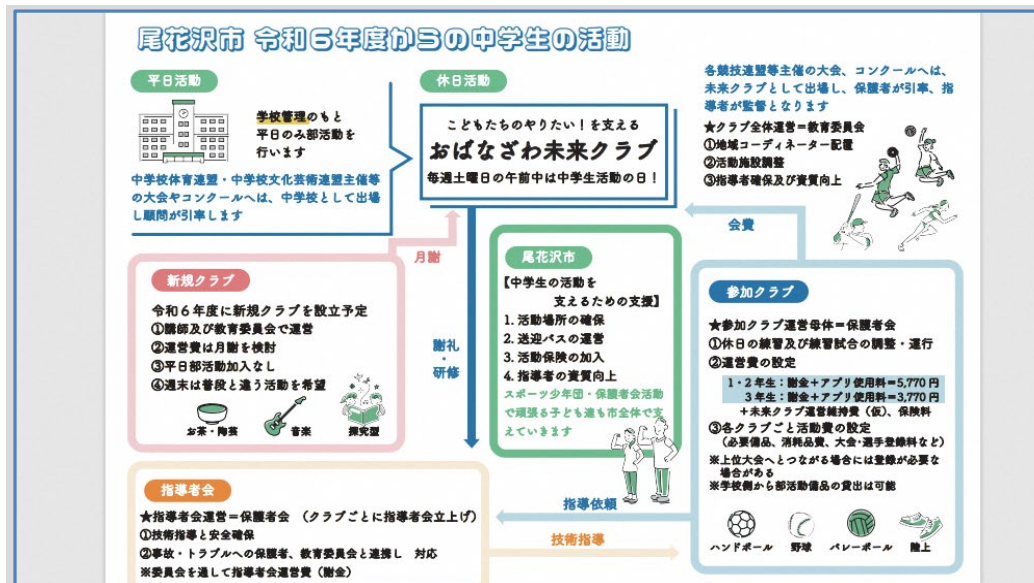
2.実証内容と成果

主な取組例

●おばなざわ未来クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	音楽（弦楽器、管楽器、打楽器） 【新規クラブトライアル】 探求型活動、料理
運営団体名	おばなざわ未来クラブ
期間と日数	音楽：11月～3月/月4回程度 【新規クラブトライアル事業】 探求型活動：9月12日、11月23日 料理：10月19日、11月30日、 12月14日
指導者の主な属性	音楽家 市内事業所 フードコーディネーター
活動場所	市公共施設 事業所内事務所
主な移動手段	保護者送迎 スクールバス 等
1人あたりの参加会費等（年額）	音楽：未定 【トライアル】 探求型：1回500円 料理：無料
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●統括責任者

役割：所属クラブの運営把握を行い、未来クラブ全体の調整を行う

●未来クラブ指導者会 4団体

役割：それぞれのクラブ活動の技術指導を行うとともに生徒同士のトラブル、いじめにも保護者、教育委員会とともに対応を行う

●運営補助者 2名

役割：施設使用、バス運行、運営費徴収及び指導者会報酬支払を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- ①休日活動受入体制整備
「おばなざわ未来クラブ」設立
■音楽クラブ立上
元地域おこし協力隊の音楽家と北村山吹奏楽団の協力
- ②新たな休日活動の立上げ
地域事業所の
- ③部活動地域移行コーディネーター1名の配置

取組の成果

- ①おばなざわ未来クラブの設立
学校部活動の地域連携・地域移行支援協議会により部活動の在り方に関する協議を実施し休日活動受入を4つの形態に定める
 - 1 スポーツ少年団
 - 2 保護者主催団体
 - 3 クラブチーム立上げ
 - 4 おばなざわ未来クラブ
 それぞれ、保護者と指導者を別にし、保険加入を条件としている。おばなざわ未来クラブは教育委員会で運営を行い、それぞれ加入団体は保護者主体としている。
- ②新たな休日活動の立上げ
アンケートを行った際に希望する活動がない、料理や映像をやってみたという結果から新規クラブ立上げを企画しトライアルを実施

おばなざわ未来クラブ活動基本方針

尾花沢市学校部活動の地域連携・地域移行支援協議会

1 基本方針

少子化にあっても「自らの未来を自らの力で切り拓く、たくましい子ども達を育てる」との意識のもと、将来にわたり本市の子ども達がスポーツや文化芸術活動等に継続して親しみ、楽しむことができる環境、機会を確保することを目指す。

生徒の中には、上位大会やコンクールを目指すだけでなく、基礎体力や社会性を身に付けたい、仲間と楽しい時間を過ごしたい、など生徒の志向が多様であることを受け入れ、勝利至上主義に傾倒することがないよう、市全体で子ども達の活動を支援していく。

(1) 中学校2校における休日活動の地域移行を推進、支援していく

(2) 子ども達の多様な「やってみたい、やりたい」が可能な環境づくりに取り組んでいく

(3) 地域の中に子ども達の「居場所づくり」に取り組んでいく

2 運営体制について

(1) 事務局の設置

中学生の多様な文化芸術・スポーツ等の活動を推進するため、活動団体の円滑な運営を支援する事務局を教育委員会内に設置し、役割を以下のとおりとする。

①おばなざわ未来クラブの運営

②部活動地域コーディネーターの配置

③学校や市内外の団体との連携及び調整

④市内中学生の活動施設の調整

⑤地域移行やクラブ活動についての情報発信

⑥指導者の確保及び指導者の資質向上のための年2回以上の研修会実施

⑦クラブ活動の際の交通支援

⑧保険加入(指導者及びおばなざわ未来クラブ加入生徒等を事務局負担とし、保険適用範囲については活動中のケガ及び保護者送迎中の事故等にあった場合にも適用するものに加入する)

⑨その他

コーディネーターの具体的な動きの実績

- 1. 中学校PTA総会、部活動保護者会長会などで部活動改革について説明会を実施
- 2. 中生活動団体の状況把握を行い、各指導者との打ち合わせ会を実施
- 3. 各団体からの相談を受け、必要に応じ保護者会を実施
- 4. 新たな活動の企画会議を実施し、協力可能な地域人材や事業所と交渉

今後の課題と対応方針

- 1. それぞれ活動団体で持続可能な運営のための課題整理を行う
- 2. 吹奏楽においては、中学校での活動目的がコンクールでの順位だとすると地域活動での目的が音楽を楽しむことであり、地域移行の受け皿として機能しないため中学校中文連や大会の在り方についても見直しをする必要がある

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項	人材バンクの人数	登録者属性	種目	資格有無
①指導者の確保と研修 元協力隊の音楽家が市内に呼びかけ、市内音楽愛好家と協力し新たな受け入れクラブを立上げ、おばなざわ未来クラブ基本運営方針に基づき、中学生活動についての研修を実施	25名	市内在住者 ①起業家 ・農業、商業、工業 ②旅館業 ③芸術家 ※小中学校のキャリア教育や子供たちの心身育成に協力できる人材	音楽	無
②Education-Bankの設立 広く児童生徒の活動を支援する若手人材を確保	人材バンクの年齢構成 10代 0名 20代 0名 30代 8名 40代 15名 50代 0名			

取組の成果

おばなざわ音楽クラブ

・元協力隊（元東京室内管弦楽団所属）の音楽家による多様な人々が音楽を楽しむ場の創出を希望。経験や年齢、性別にこだわらない「おばなざわオーケストラ」の発案、呼び掛けにより市内音楽愛好家が協力に応じて、クラブ創立に結び付いた。現在、さらに広く呼びかけ、楽器ごとに初心者に指導できる地域の大人を集め、クラブ体制づくりに取り組んでいる。

トライアル事業

・Education-Bankの起業家協力により探求型クラブのトライアルを実施し、さらに事業内容に他の起業家の協力もあり、活動の幅が広がった。



OTB

講演講師 ① 不可
職場体験 ② 不可
職場見学 ③ 不可

連絡先 〇

6～8人くらい

新藤 麻紀さん

今まで販売やパリスタをしてお客さんを持つ側から、OTBに入社してからは自ら企画・提案し営業する側となった。これまでに違う事がしてみたいという新藤さんは、これからは尾花沢に来た人が尾花沢を楽しんで、好きになるようなツアーを企画していきたいという思いを持つ。プライベートでは、「ドツキ市」の創設メンバーであり、運営の中心的人物でもある。

IDeR LAB(イデラルラボ)

講演講師 ① 不可
職場体験 ② 不可
職場見学 ③ 不可

連絡先 〇

加藤 健介さん

高校卒業後は地元企業に就職し、その間独学で映像やデザインについて学び独立。ドローンを活用したダイナミックな映像やポスターを多く手がけるクリエイターの加藤さんは「最もしていないことをするのが基本的に好き」とのこと。現在、農業用ドローンを使って農業を盛り上げるため奔走中。「尾花沢から離れる選択は人生で一度もなかった」地元愛溢れる起業家。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

■吹奏楽部

・「北村山吹奏楽団」

顧問と保護者と部活動改革を協議する上で協力体制構築に関する協力や助言を依頼

・「山形県立北村山高等学校」

これまで一番問題となっていた楽器については、地域にある県立北村山高等学校と令和5年度から協議を重ね、廃部になった吹奏楽部の楽器を借用し、市が責任をもって維持管理することで了承を得た

■新たな活動

・「企業懇談会」

中学生へのアンケートでやってみたい活動に料理(13.6%)、映像(24.7%)があり、トライアルを実施するにあたり、市の企業懇談会とも協力し実施

取組の成果

①令和6年9月に2回の音楽クラブトライアルを実施

トライアルを実施する際にも北村山吹奏楽団の代表の方に協力をもらい実施し、山形県立北村山高等学校所有の金管楽器、木管楽器、打楽器、弦楽器に触れる機会を一般から小学生まで楽しんだ。

11月に「おばなざわ音楽クラブ」を設立し、中学生から高校生、一般の大人まで参加し、12月には保育園のクリスマスコンサートを実施している。現在、初心者を受け入れするための準備を行っている。

②「Creative Obane Club」

市内で起業した事業所の協力でデザインについて学び、ポロシャツにデザインロゴをプリント作業を体験し、第2回目は市内でカフェを開店した起業家から話を聞きメニュー表を制作するなど、市内事業所等を巻き込んだ形でトライアル事業が実施できた。

③もったいないを料理で解決「料理クラブ」トライアル

市内フードコーディネーターを講師として、地域資源に目を向け「もったいない」視点で尾花沢を見る取組みと料理でできることを学んだ。小学生と中学生と一緒に意見を出し合い、講師にレシピを起こしてもらい調理を実施した。自分の住む尾花沢の豊かな地域資源と地域人材を知り、さらに付加価値を料理で付ける取組みをする中で、郷土愛を育む機会となった。

おばなざわ未来クラブのトライアル活動がスタートしました！

尾花沢市では、今年度から学校部活動の休日活動の地域移行と部活動の任意加入制度を導入しました。文科系新規クラブ「探究クラブ」「音楽クラブ」「料理クラブ」の立ち上げに伴い、10月からお試し体験(トライアル)を行ったので、活動の様子を紹介します！

01 CREATIVE OBANE CLUB(探究クラブ)

9/12(木)18:30～20:00
Tシャツづくり体験

CREATIVE OBANE CLUB(略:COB)のトライアルでは、今後のユニフォームにもなるTシャツづくりを行いました。COBの先生であるイデラルラボの加藤さんからTシャツづくりの行程を教えてもらい参加者それぞれが好きな場所にロゴを配置し、個性を出していました。



今後の活動

【活動日】月曜2週土曜
尾花沢について学びながらデザインについても学ぶことができ、活動を通して、フリーペーパーを作成し週末の観光大使を行います！

ロゴをどこに配置するかを考えています



周知を促してロゴTシャツにつけました

02 音楽クラブ

9/18(水)、9/26(木)18:30～20:00
いろんな楽器に触ってみよう！

音楽クラブでは、参加者の皆さんに教えるために尾花沢市の音楽愛好家の方々がたくさん集まってくれました！「君をのせて」と「風になりたい」の2曲を披露いただき、とても素敵な演奏から活動がスタートしました。手拍子などを交えながら一体感のある空間になりました。演奏後は、「フルート」「サクソフ」「トランペット」「ドラム」など様々な楽器に触れ体験しました。1番人気だったのは「ドラム」でした。



先生方が音楽を披露しました

たくさんの方に参加していただきました

【活動日】11/14から活動スタート！
毎週末曜日 18:00～ サルナートコンベンションホールにて行います！

今後の課題と対応方針

- ①持続可能な運営とするための組織力向上を図る
- ②受益者負担と行政支援についての協議を行う
- ③学校、行政、地域（企業・団体）との連携強化のための取組みを検討する

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

- ①安全保険加入の支援
 - ・おばなざわ未来クラブ所属クラブの児童生徒及び指導者分の保険料を支援
- ②公共施設使用料の支援
 - ・施設使用料の全額減免

地域クラブに係る経費

■イニシャルコストの分析

【取組の成果】

・文化活動に関しては、音楽、探究、料理ともに新規での取り組みとなるため、行政の既存施設や企業の関わりの中で始めたことで初期投資が抑えられた

・音楽では、地元高校で廃部となった吹奏楽部の楽器を借用後に修繕を行い、楽器を所有していない、また初心者であっても参加が可能となった

【今後の課題】

・本市では、小中学生を対象とした無償事業が多く実施されてきたことから、受益者負担に対して理解が進んおらず持続可能な団体運営について検討が必要である

◎音楽クラブ・・・楽器ごとの指導者が必要であり、まずは支える人の協力体制づくりが必要である。さらにクラブ運営をどのようにするかで、謝金の取り扱いや参加費を決定していく必要がある

◎探究型・・・地元事業所の協力によって実施されたが、持続可能な運営とするため今後も民間参入を推進し、受益者負担について広く周知を図る

■ランニングコストの分析

【取組の成果】

・行政でスタート時の支援を実施したため、各トライアル事業では安心して実施することができた

【今後の課題】

おばなざわ未来クラブ運営方針では、スポーツ団体を想定した中学生からの年間負担金を決定しているが、文化活動に関して、特に世代に拘らず活動する団体については、現在検討中である。

・トライアル参加者へのアンケートでは、月三千円以上の費用負担について難色を示す保護者が多かったことから持続可能な運営に関し検討が必要である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組

取組事項

本市中学校の吹奏楽部の地域移行の際に、練習場所及び楽器使用について課題となっていた。山形県立北村山高校では、4年前に吹奏楽部が廃部になり、令和5年度から楽器借用について協議を実施した。

①山形県立北村山高等学校の楽器借用

②公共施設の一部を楽器庫にするともに休日練習場所とする

取組の成果

- 令和5年度から協議を続け、令和6年10月1日に賃貸借契約を締結する
- 金管楽器、木管楽器、打楽器を教育委員会管理施設（尾花沢市文化体育施設）に常時配置
- 借用後に楽器の修繕を尾花沢市で実施し、その後の管理修繕を市が責任をもって行う



指導者の属性や配置の工夫

- ・指導者の属性
地域人材の活用
元地域おこし協力隊の音楽家
（元東京室内管弦楽団所属）
- ・配置の工夫
「おばなざわオーケストラ」を目指し、広く音楽愛好家に呼びかけ人員を確保した。

一貫指導に関する部活動顧問との連携事例

現状、中学校では「コンクール」での順位を大きな目標に掲げていることが、地域移行に取り組むにあたって非常に大きな問題となっていた。そのため、これまでの中学生や顧問の思いを継続する保護者主体の休日活動団体を立上げ運営を行い、一方で代や経験に関わらず誰もが音楽を楽しめることを目標とした団体を設立することで選択の幅を広げた。

将来的に音楽祭などで交流を目指す。

今後の課題と対応方針

- 楽器破損時の対応についてのルール化

2.実証内容と成果①



総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

部活動の休日活動の地域移行にあたり、学校への聞き取り、保護者役員会や保護者会での説明会などを繰り返し、吹奏楽部については保護者会主催で休日活動を実施することとなり、将来的な受け皿として多くの地域音楽愛好家が協力し、新しいクラブを立ち上げることができた。

令和5年度から継続して高校側と協議を行い、その間、一つ一つ楽器の所有について確認し令和6年10月に賃貸借契約を締結し、保管場所についても庁内で協議を行い、公共施設内の1部屋を永続的な楽器庫として使用することとした。

また、アンケートの際にやってみたい活動の声が多かった料理や映像を使った探求型クラブのトライアルでは、持続可能な運営をするにあたって起業家と協議を続けながらも費用負担や企業や団体などの地域連携の強化を図る必要性がある。

●成果の評価

本事業の以下について実施できたことから、今年度の本事業目的をおおむね達成した

- ①令和6年度4月おばなざわ未来クラブを設立済
- ②おばなざわ未来クラブに「おばなざわ音楽クラブ」を設置済
- ③事業実施の際に地域団体である北村山吹奏楽団や市内事業所と連携
- ④公共施設、学校施設を活用し中学生の活動の場を確保
- ⑤楽器賃貸借契約の完了

●今後に向けて

- ①アンケート調査を行い、生徒、顧問の状況を確認する
- ②アンケートを元に令和7年度もトライアル事業を実施し、市内起業家や事業所と連携し地域で児童生徒の育成に取り組んでいく
- ③対象を広げ、年代や居住地域も限定せずに実施することも検討していく

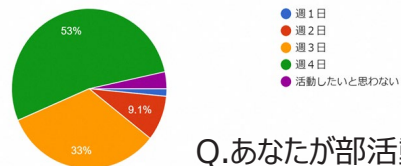
2.実証内容と成果②

アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

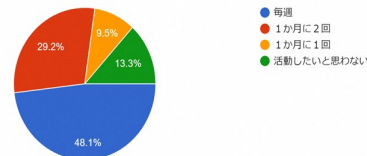
Q. 1 週間のうちどれくらい活動したいと考えていますか？【平日】

Q5 1 週間のうちどれくらい活動したいと考えていますか？（考えていましたか？）【平日】
264 件の回答



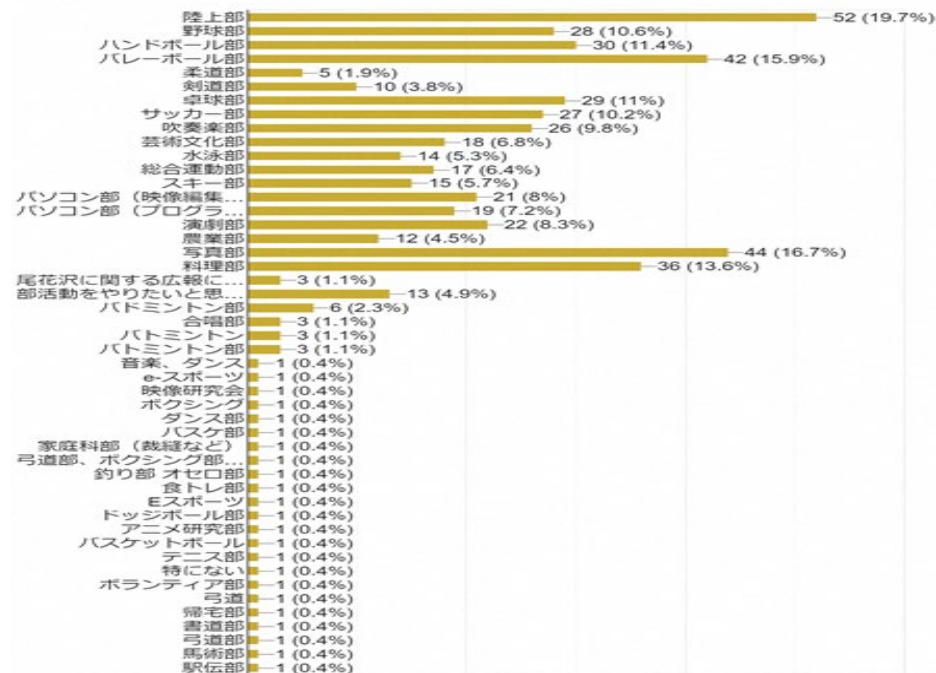
Q. 1 週間のうちどれくらい活動したいと考えていますか？【土曜日】

Q6 1 週間のうちどれくらい活動したいと考えていますか？（考えていましたか？）【土曜日】
264 件の回答



Q.あなたが部活動にあればやってみたい活動はなんですか？

Q10 あなたが部活動にあればやってみたいと思う活動はなんですか？（最大3つまで）
264 件の回答



●参加者の声

中学3年生男子

CREATIVE OBANE CLUBトライアル

同じデザイン、ロゴでも自分が伝えたいことが何かで、配置が全く違って、印象がちがうことに驚きました。簡単だからこそ、難しい！

中学3年生女子 料理クラブトライアル

いつも忙しい母の手伝いをしている中で、料理が好きになっていました。将来、私も料理に携わりたいと思って参加しました。尾花沢には、たくさんの“もったいない”があって、豊かなところに住んでいるんだと改めて思いました。

CREATIVE OBANE CLUB指導者

株式会社イデラルラボ 代表 加藤 健介さん

尾花沢の子供たちに何か協力したいと思っていました。たくさんの資源があって、自分の住む地域の魅力を感じてほしいと思い協力させていただきましたが、勉強になりました。

おばなざわ音楽クラブ指導者

元地域おこし協力隊 加藤 皓平さん

尾花沢にいて年代を問わず、音楽を楽しみ楽器に触れる機会があったらと考えていました。その中で、中学生や小学生の皆さんが、たくさんの人と関わりを持ち豊かな人生になったら素晴らしいです。

2.実証内容と成果③

【トライアルの様子】

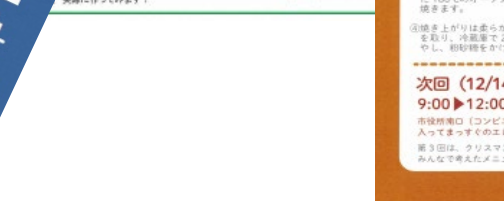
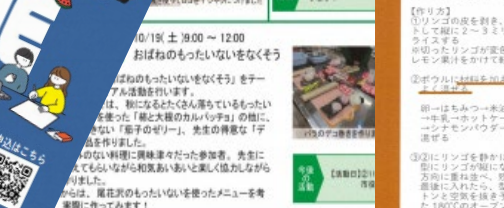


アンケート結果・広報資料

- チラシは、楽しさを全面に見た生徒が自分も作ってみたい！と思うようなデザインを心掛け、視覚を重視し作成している
- これまでの様子も映像で配信
■ 年度末にも発行予定

おばなざわ未来クラブのトライアル活動がスタートしました！

尾花沢市では、今年度から学校部活動の休日活動の地域移行と部活動の任意加入制度を導入しました。文科系新規クラブ「探究クラブ」「音楽クラブ」「料理クラブ」の立ち上げに伴い、10月からお試し体験(トライアル)を行ったので、活動の様子を紹介します！



【生徒への参加啓発チラシ】

出典:尾花沢市教育委員会

【アンケート結果】

出典:尾花沢市教育委員会

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【音楽クラブトライアル】



【CREATIVE OBANE CLUB 第1回トライアル】



【CREATIVE OBANE CLUB 第2回トライアル】



【料理クラブトライアル】

2.実証内容と成果

地域文化クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和5年

学校部活動の
地域連携・地
域移行協議会
設置

部活ごとの保護
者説明会、役
員説明会・学校、
顧問聞き取り

令和6年

おばなざわ未来
クラブ設立
地域人材、事
業所交渉

活動場所の調整
楽器借用の交渉

令和7年

中学校吹奏楽部
の状況調査、
新規クラブ立上げ

令和8年

地域クラブ活動
の拡大

●経過

- ①顧問から現状と地域移行する際の問題の聞き取りを行う
- ②部活動保護者会長会を対象に部活動改革について説明会を実施
- ③教職員向けに部活動改革について説明会を学校ごとに2回開催
- ④部活動ごとに保護者説明会を実施
- ⑤地域移行を実現するための意見交換会を保護者対象に実施

実施にあたって生じた課題

- ①生徒、保護者、顧問ともに非常に不安を感じており、「できない」という気持ちが強い
- ②音楽室が4階にあり、外部の出入りができない

●実施内容、工夫した点 等

- ①説明会は、それぞれの立場で地域移行を検討してもらうために保護者と教員向けに別々に実施し、教育委員会主導で実施

●経過

- R6.4 おばなざわ未来クラブ設立
- 9 音楽クラブ、CREATIVE OBANE CLUB、料理クラブトライアル実施
- 11おばなざわ音楽クラブ設立

●実施にあたって生じた課題

持続可能なクラブ運営のための費用負担と行政支援の在り方

●実施内容、工夫した点 等

- ①地域人材と事業所への部活動改革の周知を何度か行い理解を得た
- ②全庁で部活動地域移行の取組みの情報共有を行い、支援について取り組んだ

●経過

- ・アンケート調査を実施
- ・市の部活動改革方針を現状に合わせ、協議会で見直しを実施

●実施にあたって生じた課題

・持続可能な運営のための費用負担と行政支援の在り方

●実施内容、工夫した点 等

- ・学校、行政、地域の連携強化を図る

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

部活動地域移行ロードマップ

中学校の休日活動の地域移行への準備

休日活動の地域移行の実施

実施状況の検証と将来展望

令和5年度

Step
01

休日活動の地域移行準備

- 部活動の地域連携・地域移行支援協議会の設立
- 事業説明会の開催と地域への周知活動
- 地域人材、地域事業所への事業説明と協力体制の構築

令和6年度

Step
02

休日活動の地域移行実施

- おばなざわ未来クラブの立上げ
- 吹奏楽部、学校との協議
- 県立高等学校との楽器借用に関する協議
- 新規クラブ立上げ及び新規クラブトライアル

令和7年度

Step
03

中学校現状調査及び地域クラブ活動の拡大に向けての取組み

- 生徒、教員、保護者へのアンケート調査の実施
- 持続可能なクラブ運営のための費用負担と行政支援の在り方検討
- 新規クラブ立上げのための地域人材、事業所との連携強化

長期
ビジョン

10年後の生徒数減少にあっての活動

- 広域活動のための市町村連携
- ビジネス事業の活用 等



令和6年度

文化部活動改革（部活動の地域に向けた実証事業等）

地域文化クラブ活動への移行に向けた実証事業

山形県米沢市

自治体名：山形県米沢市

担当課名：学校教育課

電話番号：0238-22-5111

1.自治体の基本情報



基本情報

面積	総面積548.51 km ²
人口	76,766 人
公立中学校数	7 校
公立中学校生徒数	1,931人
部活動数	12部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

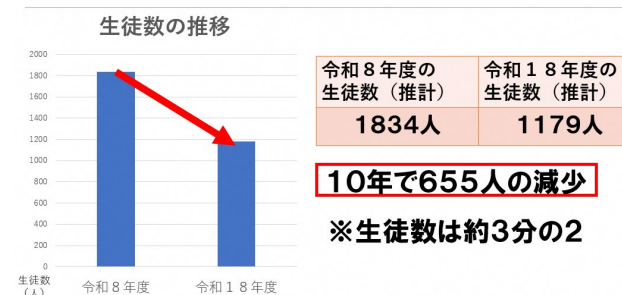
米沢市の令和6年度の部活動加入率は、市全体で80.8%で依然高い状況である。しかし、中には部員数の減少が顕著な種目がある。文化部活動では特に、吹奏楽において学校によつての部員数の違いが大きく、部員数が多い学校と少ない学校の差は最大で34名であった。部員が減少し合奏など十分な人数での活動が困難となり、スポーツ・文化芸術活動の楽しさや良さに触れる機会が少なることで体験格差が生じている。

今後少子化が進み、本市の中学生の数は令和8年度は1834名に対して、10年後の令和18年は1179名と、655名減少する。今後中学校の統合の計画はあるが、一時的には1校当たりの生徒数は増加するものの近い将来、今と同じ状況になることが予想される。

現在、生徒の新たな活動の場を各種目の連盟、協会と協力して整備している。今年度は、吹奏楽において置賜吹奏楽連盟の協力をもと新たな地域クラブを立ち上げ、先行して実証事

業を実施した。また、そのほかの文化活動についても、芸術文化協会と情報の共有を行い、どうしたら実施可能になるか協議している。

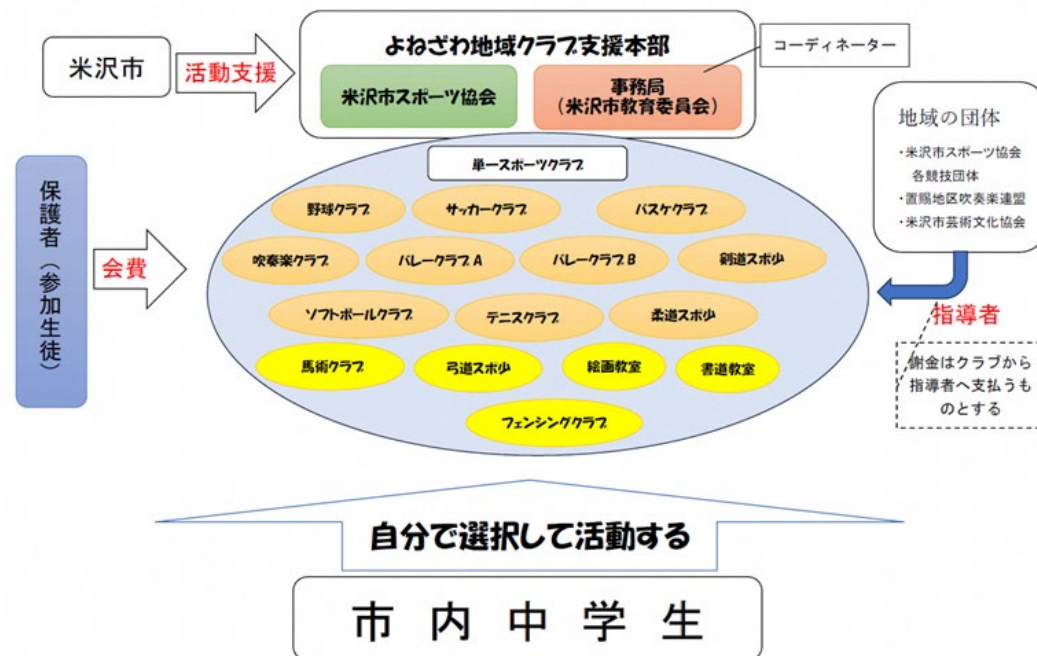
実証事業を行った中であらためて確認された課題としては、活動場所の確保をどのようにしていくか、中学校施設や市施設の貸出方法・鍵の扱いを簡略化できないか、用具をどのように整備していくか、というハード面についてのものが出された一方、指導者の確保をどうするか、費用設定をどのようにし、受益者負担をどの程度にしていくかといった運営面での課題が出された。



2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・教育委員会内に事務局を設置し、教育総務課、社会教育文化課、スポーツ課、学校教育課が連携を図りながら業務を推進していく。
- ・学校教育課…検討委員会及び各種説明会の企画・運営。協議内容を学校及び競技団体に報告し、受け皿の設置に向けコーディネートする。
- ・スポーツ課…スポーツ協会との連絡・調整。中学生の活動の場の集約。
- ・社会教育文化課…芸術文化協会との連絡・調整。中学生の地域文化活動の場の環境整備と集約。

年間の事業スケジュール

令和6年 6月	・令和6年度第1回検討委員会
令和6年 7月	・実証事業説明会
令和6年 9月	・お知らせの発行
令和6年10月	・アンケート
令和6年10月～ 令和7年 1月	・実証事業（3クラブ）
令和7年11月	・第2回検討委員会
令和7年12月	・中体連総会説明会
令和7年 1月	・市民向け説明会
令和7年 3月	・第3回検討委員会 ・令和6年度実証事業の成果報告ならびに令和7年度実証事業説明会

2.実証内容と成果

地域文化クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	7校	実施した地域クラブ総数	3クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		0クラブ
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		3クラブ
全体の指導者数	21人	全体の運営スタッフ数	10人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
東成クラブ	置賜吹奏楽連盟	吹奏楽	3回	9:00～12:00	中1 9名 中2 13名	11月5日 11月30日 1月5日	米沢一中 米沢五中	6人	4人 (内、兼務4人)	1800円	参加なし
南成クラブ	置賜吹奏楽連盟	吹奏楽	3回	9:00～12:00	中1 16名 中2 10名	11月30日 12月7日 1月5日	米沢二中	9人	3人 (内、兼務3人)	1800円	参加なし
北成クラブ	置賜吹奏楽連盟	吹奏楽	3回	9:00～12:00	中1 17名 中2 14名	11月4日 12月8日 1月5日	米沢四中	6人	3人 (内、兼務3人)	1800円	参加なし

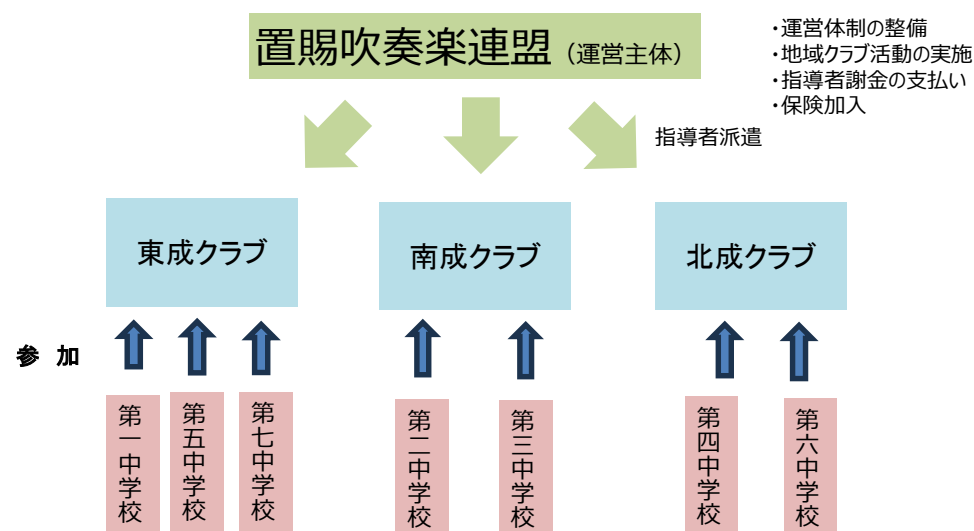
2.実証内容と成果

主な取組例

●北成クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	吹奏楽
運営団体名	北成クラブ
期間と日数	令和6年11月4日 令和6年12月8日 令和7年 1月5日
指導者の主な属性	置賜吹奏楽連盟
活動場所	米沢市立第四中学校
主な移動手段	現地集合現地解散
1人あたりの参加会費等	1800円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 責任者
 - ・活動の計画・運営
 - ・会場の確保
 - ・支払い
- 指導者 9名
 - ・参加生徒、保護者及び指導者との連絡調整、管理
 - ・指導者で役割分担を行い、生徒への指導を行う。
 - ・練習メニューの立案

文化庁

6

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

- ・置賜吹奏楽連盟が中心となり、現在学校部活動の外部指導者として指導している方に協力を仰ぐなど、指導経験がある方を中心に広く呼び掛けた。
- ・「地域クラブ設立の手引き」を作成し、指導者としての要件をまとめることにより、有資格者でなくても、資質能力を有する者が指導しやすいよう、体制整備を行った。

地域クラブ指導者登録数

21名

種目別指導者登録数

東成クラブ	6名
南成クラブ	9名
北成クラブ	6名

指導者の要件

生徒にとってふさわしい地域クラブ環境を整備するため、専門性や資質・能力を有する指導者であること。また、生徒の多様なニーズに応えられるよう、資質向上に取り組み以下の①～⑤のすべてを満たす者とする。

- ① 成人（満18歳）に達していること（学生を含む）
- ② 国、山形県、米沢市の指導指針に基づいて指導することができ、日頃から必要な知識や技術の習得に努めていること。
- ③ 地方公務員法第16条及び学校教育法第9条各号に該当しないこと。
- ④ 過去の指導において体罰、ハラスメント等、指導者として不適格と認められる事項のないこと。
- ⑤ ①～④を満たし、かつ、市内競技団体・各文化芸術団体、市教育委員会、市内中学校長のいずれかの推薦がある者
（仮）米沢市地域移行型クラブの指導者については、米沢市教育委員会が承認する。

取組の成果

- ・米沢市の取り組みとして、受け皿となるクラブの設置を、連盟・協会に依頼をしていたため、指導者についても、有能な指導者を確保することができた。
- ・活動に参加した生徒からは「専門的な指導を受けることができてうれしかった。」「いつもは少人数で活動しているが、大人数で活動してみても学ぶことが多かった」などの感想が多く見られた。生徒にとって、専門的な指導を受けたり、適切な人数で活動する機会は貴重な経験となっている。練習後には「このような機会をもっと増やしてほしい。」という感想も聞かれた。
- ・競技団体からの推薦という形をとったため、有資格者だけでなく、指導経験が豊富な地域指導者も参加しやすくなった。このことが人材確保につながったと考える。

今後の課題と対応方針

- ・今後も継続的に活動していくにあたり、指導者への保障（謝金等も含め）を検討していく必要がある。
- ・指導者の質（ハラスメントの根絶）を確保するために、研修会等を実施していくことを検討している。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- ・コーディネーターが、定期的に置賜吹奏楽連盟、芸術文化協会に対して実態調査を行う。
吹奏楽の実態調査だけでなく、今年度行っていない種目についても来年度の計画等を確認していく。
- ・コーディネーターを中心に実証事業の実情を把握し、受け皿となる地域クラブとともに課題解決に取り組む。

取組の成果

- ・実証事業を行うにあたり、置賜吹奏楽連盟と常に実施内容について確認を行ってきたことで、ガイドラインに即した地域クラブの設置が進められている。
- ・実証事業を行っていない種目についても、来年度の実証事業への参加種目の見通しがたった。
- ・事務局で各方面に活動内容を周知することができた。その結果、来年度の実証事業への参加種目の見通しがたった。学校部活動にない活動（ボランティアや国際交流）も実証事業に参加の可能性が出てきたことは新たな一歩である。
- ・学校と情報交換を行い、学校でできる支援についても検討した。その結果、活動場所として学校施設を優先的に使用すること、学校部活動の道具を使用することといった内容を確認することで課題解決の一助となった。

今後の課題と対応方針

- ・吹奏楽の活動を行ううえで、体育館等の社会体育施設とは異なり、学校内を使用することとなる。セキュリティ等を含めて整備が必要になってくる。
- ・費用・会費については、種目によって大きく異なるため、今後とも検証が必要である。同じ種目についてはクラブによってばらつきが無いように設定していく必要がある。

令和6年度 実証事業
・吹奏楽 3クラブ

令和7年度 実証事業（予定）
・吹奏楽 3クラブ
・国際交流活動 1クラブ
・ボランティア活動 1クラブ
※現在一般向けに行っている文化芸術活動への中学生の参加

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

○吹奏楽を愛好する児童生徒が、継続的に活動できるよう組織体制や運営体制を構築していく。

○米沢市内に3つのクラブを立ち上げ適正な人数で活動を行う。

○置賜吹奏楽連盟から指導者を派遣し、専門的な指導を行っている。

活動の詳細

参加人数	79人	指導者数	21人
属性	置賜地区吹奏楽連盟		
具体的な内容	1回目：講師紹介・自己紹介・1日の流れの説明・パート練習（次回は合奏を行うことを確認）。練習だけでなく、他校の生徒の名前を覚えることも課題の1つであることを確認（紙のネームを作成）。パートで1st、2nd等を確認。各パートの楽譜配布。 2回目：パート練習・合奏（指揮者は吹奏楽連盟指導者） 3回目：保護者向けコンサート		
子供の声	● 他校の人の演奏が上手で、自分も平日の練習を頑張ろうと思った。 ● 日頃は1人で練習している。大人数で練習できてよかった。 ● 基礎の大切さがわかった。 ● 互いにやったことがない曲について指摘しあえてよかった。		
関係者の声	● ○他校と交流して学びが多い生徒もいる。 ● ○配慮の必要な生徒について情報交換ができたのはよかった。 ● △場所を学校にするとセキュリティ上顧問が参加するしかない。 ● △連絡出欠の連絡等をどのように把握するか。テトルなどを考えているが、学校外の人が管理することは可能か。使用料はどのくらいかかるか。 ● △参加している人とそうではない人の差を日頃の部活動でどのように埋めていくか。 ● △部活動と地域活動の両方をやっている状態。負担が大きい。		
運営経費	参加費1人1,800円（保険料800円、指導料1,000円） 指導者謝金 1日4,000円 楽譜のコピーは学校外で行い領収書を取得。運営費から支払う。 ※楽器はそれぞれの学校のものを使用。		

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実②

取組の成果

- ・専門的な指導を行うことができる指導者を確保することができた。参加した生徒からは、否定的な感想はなく、充実した活動を行うことができた。
- ・指導者に謝金をお支払いすることにより、指導者自身もより責任をもって指導にあたっていた。
- ・生徒数が減少する中、学校によって体験格差が生じているが、活動するクラブ数を検討し、適正な規模で実施することにより、日頃行うことができない練習（合奏等）を行うことができ、専門性に触れることができた。
- ・連盟・協会の立場からも、吹奏楽の本質、楽しさを伝えることができる良い機会となると同時に、専門性を有さない教員の手助けとなった。
- ・教職員についても、兼職兼業の制度を用いることで、指導にあたりたい教員の専門性を発揮できるようになったことに加え、希望する小学校教員の活動の機会も確保できた。

今後の課題と対応方針

・持続可能な活動を行っていくためには、財源確保が必要である。今回は実証事業という事もあり、各クラブへの補助を行うことができていたが、今後そうではなくなった場合の支援のあり方を検討していく必要がある。

米沢市としては、今年度の活動を受けて、以下の内容を確認している。

①学校施設の減免使用

②学校部活動の道具の共同使用 ※その他、金銭的な補助については検討中である。

・内容を充実させるにあたり、指導者の数だけでなく質を下げないことが重要である。専門性の高い指導者だけでなく、特に「ハラスメントの撲滅についての研修会」を検討していく。

・充実した活動を行うために、学校施設の整備が必要である。

主な内容の充実のための取り組み

- ・適正な活動の規模の検討
→市内3クラブで活動する
- ・専門性の高い指導者の確保
→連盟・協会の推薦による指導者
- ・兼職兼業の制度の実施
- ・指導者への謝金の設定
- ・優先的な学校施設の開放

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

○地域クラブの運営にあたっては、持続可能な仕組みづくりを行なっていく必要があることから、実証事業における収支構造の可視化を行い、適切な受益者負担額の設定や、公的資金のバランスについて検証を行なった。

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

1人あたり 年間 活動費43,960円＋保険料800円＋その他4,000円（推定）＝48,760円（月額約4,000円）

収支バランス

市として会場使用料及び暖房費等を負担した場合 活動費40,000円＋保険料800円＋その他4,000円＝月額3,800円程度の徴収となる。

ただし生徒25人に対して5人の指導者の場合にあたる。20名程度の参加者のクラブもあるため月額4,500円程度の徴収が必要となる。

※1クラブの活動費で計算

○指導者謝金

1回1人あたり4,000円

1回の練習会で5人の指導者を派遣予定

→4,000円×5人分＝20,000円

○会場使用料 学校体育館の使用料 1回あたり

教室330円×5部屋（1,650円）＋音楽室330円＝1,980円

⇒1回あたりの活動費

20,000円＋1,980円＝21,980円

⇒年間50回の活動とした場合

21,980円×50回＝**1,099,000円**

⇒今年度の参加者25名程度の場合 1人あたり年間**約43,960円**（月額約3,700円）

○その他の費用として

- ・保険料**800円（年間）**・その他消耗品（楽器の修理等を含めると膨大な金額となる）
- ・楽器運送費

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等②

取組の成果

- ・今年度は、種目の実情に合わせて様々なパターンで実証事業行うことで、参加費用負担額の具体的な数値がわかってきた。
実際に行うまでは、施設使用料も有料で考えていたが、次際に算出する中で、参加者の大きな負担となり得ることがわかってきた。
市としても、学校施設については減免の対象として扱う方向で検討している。
- ・参加人数により、1人あたりの負担額が大きくなることから、適正な規模で運営していくことが、持続可能なクラブ運営になることが実証された。

今後の課題と対応方針

- ・市として、学校施設を減免の対象とすること、学校部活動の道具を共用して使うことで経費削減につなげる支援を行っていく方向ではいるが、それだけでは十分な補助とは言えない現状がある。財政支援がどこまでできるか、検討が必要である。
- ・財政支援を行う際に事務作業が膨大になってしまう。軽減できる制度設計が必要である。
- ・今年度の実証事業を通して、受益者負担額は4,000～4,500円は必要である算出を行った。しかし、参加人数や指導者の数、種目の特性によるランニングコストによって収支の額が変動するため、全種目を同じ負担額にすることはできない。そのため、種目の実態に応じて、**種目の中で差が生じないよう調整**していくことが必要である。
- ・コンクール等の参加に関わる費用について検討が必要である。**上位大会に進んだ場合の補助**は、どの市町でも行っている。広域的にクラブ参加が認められるようになることを想定すると、**周辺の市町と足並みをそろえて対応していく必要がある**。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

- ・すべてのクラブの実証事業において、学校施設を利用し、課題等を出し合い、解決に向かう。
- ・顧問の先生がいない場合を想定し、実証事業を行う。

取組の成果

- ・学校施設を利用するにあたり、当該学校の生徒は使い慣れていることもあり、使用方法について混乱を招くことは少なかった。
- ・低価格で使用ができた。
- ・道具の運搬等の少なくて済んだ。

今後の課題と対応方針

- ・当該校の生徒以外は遠距離からの参加となることが多く、移動に負担がかかった。
- ・顧問の先生がいないことを想定して活動しようと計画したが、実際は、生徒への連絡やセキュリティの解除、暖房の一括管理システムの作動など、学校の先生でなければ対応できないことが多々あった。
- ・体育館等の社会体育施設とは異なり、校舎内を使用することから、上記内容のように学校の先生でなければ対応できない部分があるため、校舎の改修を検討しなければならない。
- ・会場申請の事務手続きが大変である。地域クラブに関しては、優先的かつ長期的に場所を確保できるよう対応を考えていく必要がある。
- ・鍵の借用の事務手続きが大変である。**スマートロック**へ移行できないか検討が必要である。それまでの期間においては**キーボックス等**で対応できないか、検討する。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

今回の実証事業を行っていくにあたり、置賜地区吹奏楽連盟の協力もあり、3つのクラブを立ち上げて活動を行うことができた。クラブによって、活動内容に違いはあるが、参加した生徒からは「生徒同士で学ぶ機会があった」「仲間が増えた」「指導が新鮮であった」「回数が限られているので次回まで練習してきたい」「少数でできなかった合奏ができてよかった」「いつもは一人で練習しているが、友達と練習すると自分の課題も見えてきた」などの声が聞かれた。

今年度実証事業を行っていない種目においても、来年度に向け、検討を進めている種目があり、事業の拡大が期待できる。

しかし、参加生徒のニーズにこたえられる指導者が不足しているという声が聞かれた。また指導者に対する謝金についても再考する必要があると思われる。同時に参加費についてもクラブを運営するにあたり、受益者負担は必須であるため、あらためて活動の趣旨、ねらいを広く周知しながら、市としての支援についても検討を進めていく必要がある。

●成果の評価

○手探りでスタートをした実証事業であったが、運営者、指導者には意欲的に活動を行ってもらった。実証事業がスタートしたことで、よりよい活動にしていくための方法について具体的に話し合いが行われるようになった。

○保護者も最初は不安を抱えていたが、活動を通して趣旨やねらいを理解してくれる保護者が増えた。

○専門的に指導してもらえることで、生徒のモチベーションの向上につながった。このことが平日の活動のやる気にもつながっている。

○他校との交流を通して新たな視点や学びを得る生徒が多く、成長の機会となった。

●今後に向けて

○生徒や保護者への連絡手段が構築されておらず、学校の先生を経由せざる得ない状況が多々あった。連絡ツール等の制度設計が必要である。

○指導者への謝金の金額や受益者負担の金額についても、今年度の実績を基に提示し、種目の特性や参加生徒数を鑑み、再度検討していく必要がある。

○廃校になった学校施設の利用について関係部署と調整していく必要がある。

○学校施設におけるセキュリティ、暖房の一括管理システム、立ち入り禁止エリアの明確化等について検討を進める。

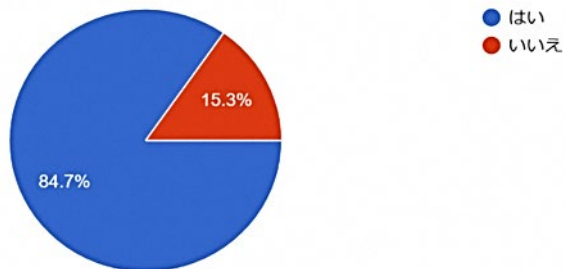
○活動支援について（財政補助や大会参加補助など）検討を進めていく必要がある。

2.実証内容と成果②

アンケート結果・参加者の声

●小学5年生～中学1年生及びその保護者に行ったアンケート結果

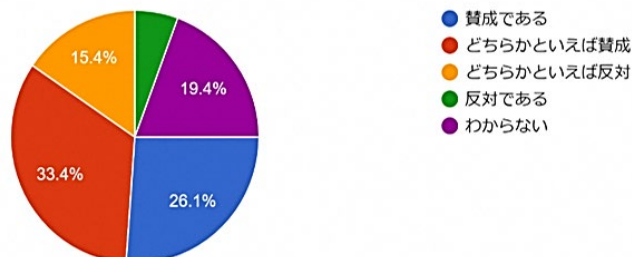
中学校に進学したら部活動に参加したいと思いますか。



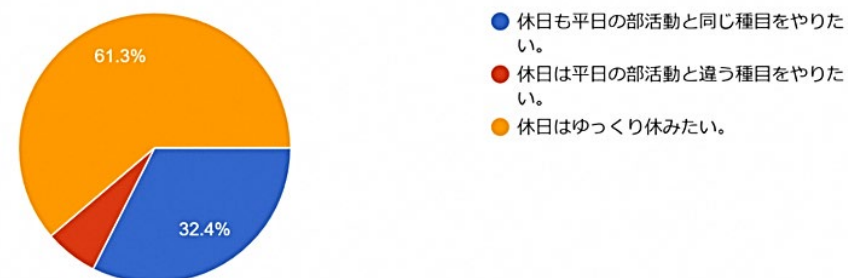
あなたは部活動や地域クラブに参加していますか。



休日のスポーツ文化活動を地域のクラブが担うことについてどう思いますか。



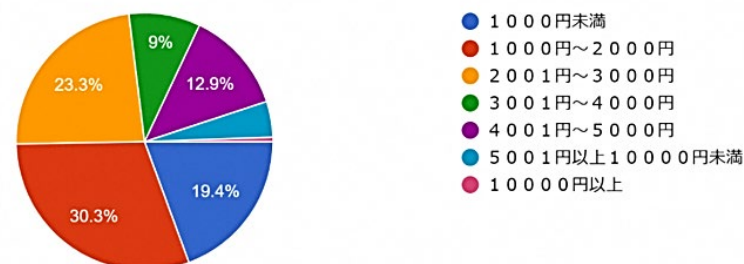
中学校の部活動が平日のみとなった場合、希望する休日の過ごし方について教えてください。



学校の活動に参加している人に聞きます。中学校の部活動が休日のみとなった場合、希望する休日の過ごし方について、教えてください。



学校部活動を地域のクラブが担うことで、家庭の費用負担が発生する場合、月ごとの費用負担額はどの程度が適当であると考えますか。

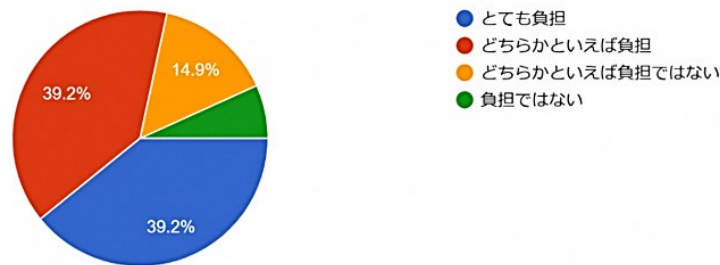


2.実証内容と成果②

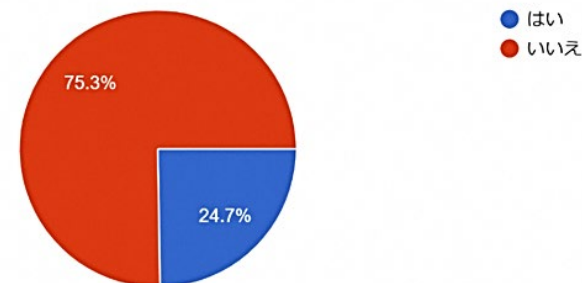
アンケート結果・参加者の声

●教職員に行ったアンケート結果

部活動指導の負担が大きいですか。



休日の学校部活動が地域に移行された場合、地域の指導者として生徒を指導したいと思いますか。



●実証事業参加者の声

参加した中学生から

- ・多くの指導者から専門的なことを習うことができて楽しかった。
- ・少人数ではできない、合奏やパート練習ができてうれしい。
- ・いつも少ない人数で行っているの、いい練習なのかもわからないでいたけど、たくさんの友達と練習できていっぱい学べた。
- ・参加についても自分の体調に合わせて調整できるのがありがたい。
- ・他の中学校にも友達ができた。
- ・ほめてもらえてよかった。もっと褒めてほしい。
- ・こういう機会をこれからも作ってほしい。

指導者から

- ・最初は手探りではあったが、生徒たちの生き生きした表情が見ることができて充実した活動になった。
- ・今後どのような方向性で進んでいくか心配ではある。
- ・中学生の活動の場も必要だが、小学生も一体的に考えていかなければならないのではないかな。
- ・専門性の高い指導者を配置することで、専門ではない種目を顧問している先生の役に立ったと思う。
- ・学校部活動では設置されている種目に偏りがある。他の学校の生徒でも参加したい生徒もいると思う。周知するためには市の力が必要である。

2.実証内容と成果③

広報資料

- ・小学5年生～中学2年生の児童生徒ならびに保護者に対し、お知らせを配布し、活動内容の周知を図った。
- ・令和7年1月15日（水）に市民向けの説明会を実施した。
- ・ホームページを開設し、広く活動内容の周知を図った。

休日の中学校の部活動が 地域で行う活動にかわります

令和6年9月20日版

米沢市では、「令和8年度から中学生の休日の活動の場を部活動から地域のスポーツ・文化活動に移行する」ことを目指しています。

現在、少子化の影響により、各学校単位での部活動の成立が難しくなっている現状を踏まえ、子どもたちが充実したスポーツや文化活動を行える受け皿の整備に向け、各連盟・協会に協力いただき、地域全体で子どもたちの活動を支える体制の構築に取り組んでいます。

令和6年度の取り組みについて

(1) 実証事業

①ねらい

- ・実証事業をもとに、子どもたちにとってよりよい活動内容を検証します。
- ・費用、活動場所、移動方法などの課題解決に向け検証を行います。

②実証事業を行う種目

種 目	運 営 主 体	役 職 ・ 代 表 者 名
軟 式 野 球	米沢市野球連盟	会 長・鈴木 辰之
ソフトボール	米沢市ソフトボール協会	会 長・葛橋 善彦
剣 道	米沢市剣道連盟	会 長・三條 直夫
体 操	米沢市体操協会	会 長・須藤 正彦
バドミントン	米沢バドミントン協会	会 長・豊坂 雅彦
陸 上	Yonezawa Athletics Club	クラブ長・荒川 光浩
吹 奏 楽	置賜地区吹奏楽連盟	会 長・加藤 公一

現在もソフトボール、陸上、野球の一部では活動が開始されており、今後もどのような形であれば活動が持続可能かを検討しています。

(2) 実証事業以外の種目の推進

実証事業を行っていない種目（上記以外の種目）においても、どのような形であれば中学生が活動できるか、各連盟・協会が中心となって検討を進めています。

多くの種目で活動ができるよう、体制整備を進めていきたいと考えております。

問合せ 米沢市教育委員会 学校教育課 22-5111(内線7402)

【生徒へ保護者向けお知らせ】

米沢市 部活動の地域移行に関わる説明会

令和6年12月13日発出



子ども達にとって望ましい
スポーツ・文化芸術環境の構築に向けて

米沢市では、部活動の地域移行に関する説明会を開催いたします。この説明会では、国や県が目指す姿について講師を招き、具体的な取り組みや今後の見通しについて詳しくご説明いたします。また、米沢市における現在の取り組みについてもお話しさせていただきます。

さらに、地域で活動しているクラブの指導者からは、子ども達の活動の様子やその意義についてもご紹介いただく予定です。

子ども達にとって望ましいスポーツ・文化芸術環境の構築に向けて、そのあり方を一緒に考えていきたいと思います。

令和7年1月15日（水）

時 間 18:30～20:00

対 象 者 どなたでも参加いただけます。

会 場 置賜総合文化センター ホール

参加方法 二次元コードで申し込みください。

参加無料
事前申込

締切・令和7年1月10日(金)

講 師

山形県教育局学校体育保健課（部活動改革）担当

＜内容＞

山形県における学校部活動改革の方針、今後の具体的な取り組み、各自治体に期待していることなど、についてお話しします。

説 明

① 米沢市部活動の地域移行検討委員会担当者

② 令和6年度実証事業委託クラブの指導者

問合せ 米沢市教育委員会 学校教育課 22-5111(内線7403)

【説明会実施のお知らせ】

米沢市の
ホームページに
掲載

検索：
「米沢市 地域移行」

問合せ：
米沢市教育委員会
学校教育課
22-5111
(内線7403)

【HPの開設】

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【実証事業】



【実証事業】



【実証事業（保護者向け発表会）】



地域吹奏楽クラブ活動 保護者説明会

令和6年10月15日（火）

【吹奏楽保護者説明会】



【市民向け「部活動の地域移行に関わる説明会」】



【検討委員会】

2.実証内容と成果

令和5年

検討委員会の
設置、検討開
始

各競技団体・協
会とのワーキン
ググループ

令和6年

連盟・協会主
体のクラブ設
立

生徒、保護者へ
の説明

令和7年

地域クラブ活動
の可能な種目よ
り開始

令和8年

地域クラブ活動
の拡大

ステークホルダー

学校、スポーツ協会、連盟・協会、地域クラブ
市教委、コーディネーター

経過

・令和5年度より検討委員会を設置し、競技連盟・協会が運営主体となる地域クラブを設立し活動する計画及び地域クラブの活動指針を策定した。

・令和6年度は、吹奏楽で3つの地域クラブを立ち上げ、受け皿の整備を進めた。

実施内容

・令和6年11月から、希望者が地域クラブ活動へ参加する試験的な取組を本格的に開始した。地域クラブ活動は米沢を3地区に分割して、市内全中学校生徒が自分の学区で参加できる形態である。実施にあたって、各中学校の顧問より生徒への周知等がなされた。種目によっては保護者会を開催し、実施の趣旨や目的について説明が行われた。また、保護者説明会も実施した。

実施にあたって生じた課題

・学校施設におけるセキュリティの解除、暖房の一括管理システムの操作は学校の先生でなければ行えないものであるため、学校施設の改修について検討を進める。

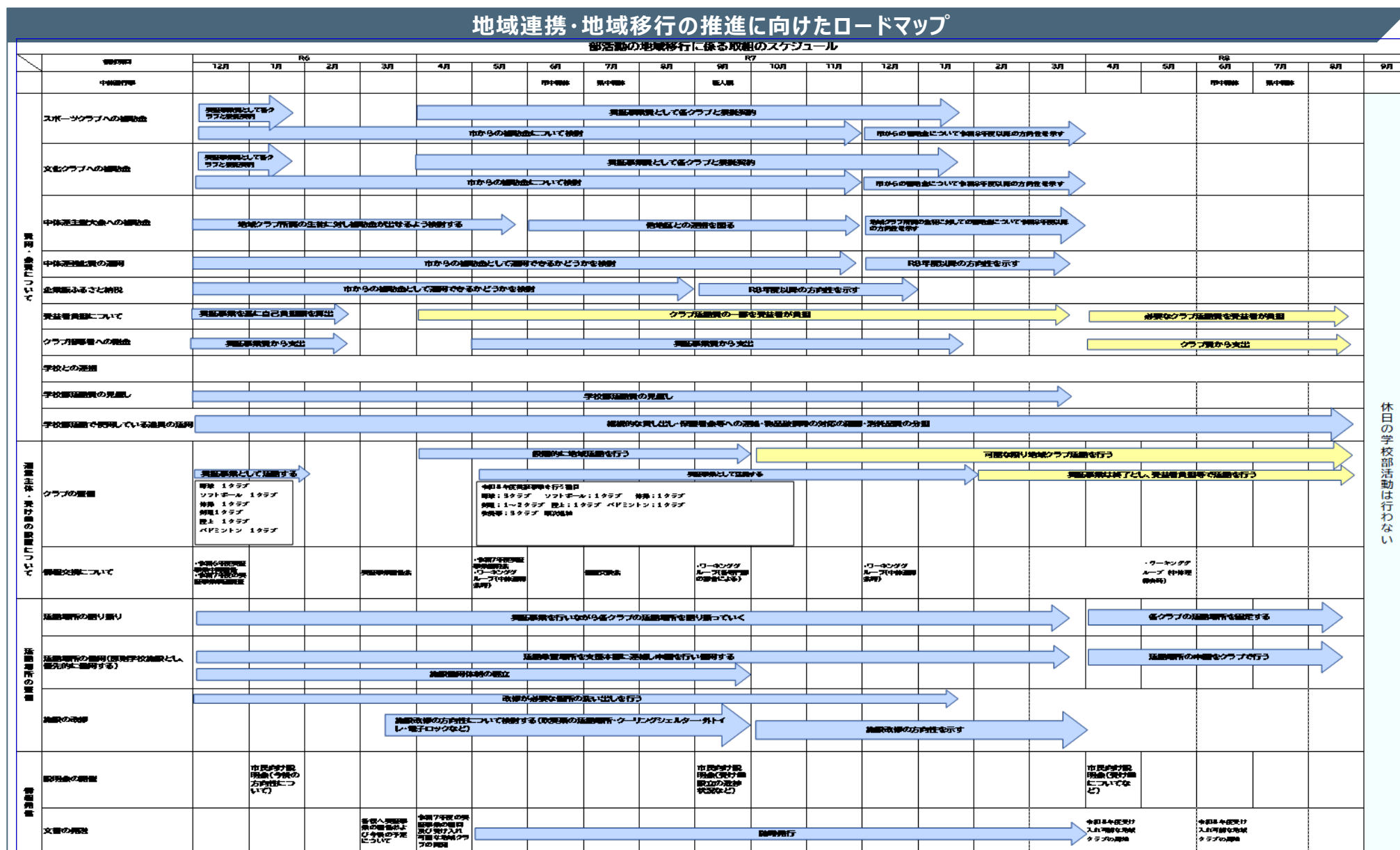
・活動が始まって間もないため、特に保護者の理解が進んでいない。アンケート調査を行った結果、月謝・移動手段・指導者への不安が多く上がった。

今後の展開

・令和8年9月からは、市内すべての中学校において、休日は部活動を行わないこととなる。休日の地域クラブ活動を可能な限り実施していくにあたり、連盟・協会や地域クラブと密に連絡を取っていく必要がある。

・持続可能な地域クラブ運営とするために、受益者負担や移動手段、指導者の質の確保について保護者の理解を深めていく必要がある。説明会を開催したり、おたよりを発行したりと周知の機会を多く設ける必要がある。

3. 今後の方向性





令和6年度

文化部活動改革（部活動の地域に向けた実証事業等）

地域文化クラブ活動への移行に向けた実証事業

山形県小国町

自治体名：山形県 小国町

担当課名：教育振興課

電話番号：0238-62-2141

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	737.56 km ²
人口	6,627人
公立中学校数	2校
公立中学校生徒数	165人
部活動数	2部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	未策定

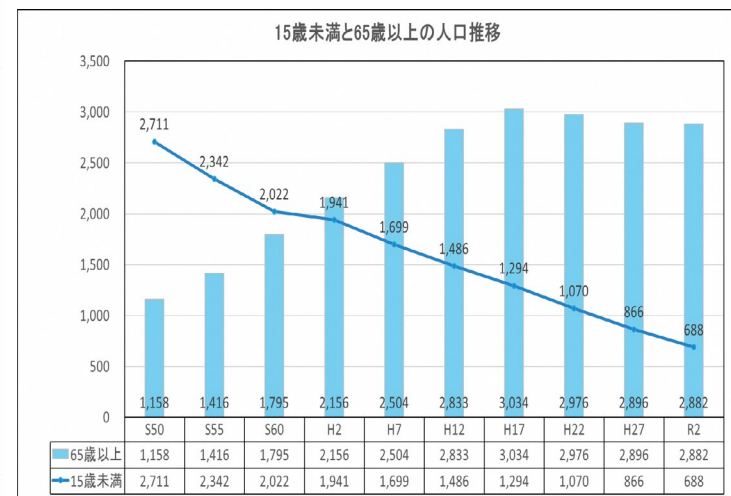
地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

町内中学校には2つの文化部がある。いずれも基幹中学校である小国中学校にあり、令和5年度から吹奏楽部地域移行の実証事業に取り組んでいる。

小国町は令和4年度からスポーツクラブ地域移行の実証事業に取り組んでおり『NPO法人おぐにスポーツクラブYui』を受け皿とする組織（運営主体）があったこと、地元の公立高校の放課後活動（吹奏楽）の受け入れ実績もあったことから、音楽関係団体の理解と協力を得て指導者を確保し、連携しながら行っている。

これまでの取り組みから、地域移行を進めるためには『人材』・『経費負担』・『移動手段』の3つが大きな課題として見えてきた。1つ目の『人材』は、高齢化や人口減少が急進するなか、クラブ活動を支える指導者をどの様に確保して行くのか。2つ目の『経費負担』は、クラブ活動経費を行政がどこまで負担すべきなのか。3つ目の『移動手段』は、子ども達の移動手段をどの様に確保すべきかと言った点があげられる。

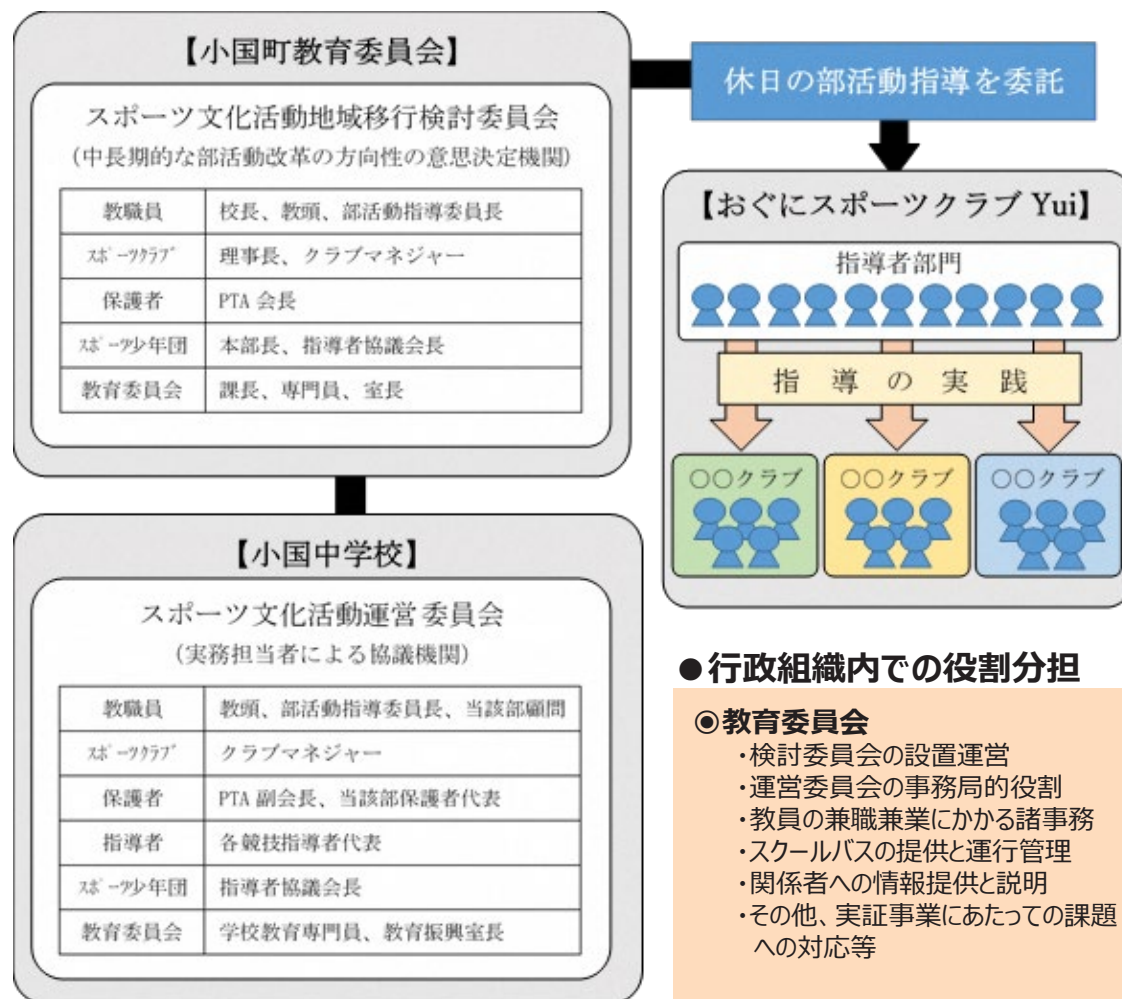
特に『移動手段』では、当町は地理的に車移動に頼らざるを得ない環境にあり、町内移動はもとより、近隣市町との広域連携を進めるうえでも、スクールバスの活用について議論・整理をする必要がある。



2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



年間の事業スケジュール

- | | |
|---------|--|
| 令和6年6月 | <ul style="list-style-type: none"> ・第1回スポーツ文化活動運営委員会 ・第1回スポーツ文化活動地域移行検討委員会 |
| 令和6年7月 | <ul style="list-style-type: none"> ・部活動の地域移行にかかる説明（保護者、競技団体、スポ少等関係者対象） ・おぐにスポーツクラブYuiと運動部活動指導業務委託の契約締結 ・実証事業の実践開始 |
| 令和6年11月 | ・第2回スポーツ文化活動運営委員会 |
| 令和6年12月 | ・第2回スポーツ文化活動地域移行検討委員会 |
| 令和7年1月 | <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査の実施（生徒、保護者、指導者、教員対象） ・実証事業の終了（委託契約終了） |
| 令和7年3月 | <ul style="list-style-type: none"> ・第3回スポーツ文化活動運営委員会 ・第3回スポーツ文化活動地域移行検討委員会 |

2.実証内容と成果

地域文化クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	2 校	実施した地域クラブ総数	1 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		1 クラブ（1 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 クラブ
全体の指導者数	9 人	全体の運営スタッフ数	10 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
吹奏楽クラブ	総合型地域スポーツクラブ	吹奏楽	月1回～2回 計12回	9:00～ 12:00 ほか	11人（1年） 3人（2年） 10人（3年）	7月～ 2月	小国中学校	9 人	1 人	なし	中体連関連 ：部活動 その他：なし

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 主体となって開催することはなかったが、町民主催のイベントにおいて演奏を行った。

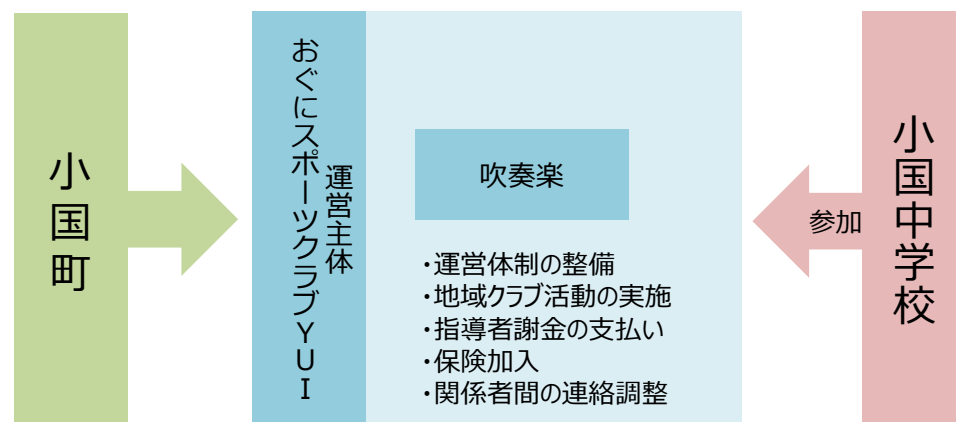
2.実証内容と成果

主な取組例

●おぐにスポーツクラブYui 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	吹奏楽
運営団体名	おぐにスポーツクラブYui
期間と日数	吹奏楽：8月～2月 月2回程度 12回
指導者の主な属性	愛好家
活動場所	小国中学校
主な移動手段	スクールバス
1人あたりの参加会費等（年額）	令和6年度については、運営団体と検討し、令和7年度より費用負担を求めることとした。
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- コーディネーター 1名
役割：学校、生徒、指導者、行政との連絡調整等、実施管理等を行う
- チーフ指導者 1名
役割：顧問やコーディネーターとの連絡調整、計画立案等を行う
- 指導者
役割：チーフ指導者の指示に従い、指導を実践する

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

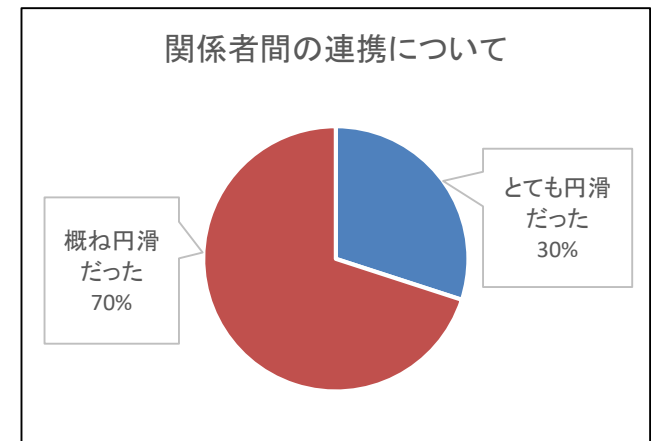
取組事項

- ・学校、保護者、スポーツクラブ、指導者、行政による検討委員会、運営委員会を組織し、関係者間の情報共有や意思統一を図る。
- ・受け皿組織（運営主体）にコーディネーター1名を配置し、管理監督の下、しっかりとした指導組織体制を構築する。

取組の成果

- ・『スポーツ文化活動地域移行検討委員会』を設置し、中長期的な方向性の検討、関係機関の役割分担、行政支援の在り方、実証事業の評価検証を行う体制を整備した。
- ・『スポーツ文化活動運営委員会』を設置し、実証事業にあたってのルールや、事業過程における課題等を検討する体制を整備した。
- ・コーディネーターが主となり、関係者との連携を進め、指導者確保を円滑に行うことができた。

関係者間の連携について



コーディネーターの具体的な動きの実績

【コーディネーター】

- ・学校、生徒、指導者、行政との連絡調整
- ・クラブ活動の進捗管理等、その他事業実施にあたっての雑務

今後の課題と対応方針

- ・事務の効率化や負担軽減のため、関係者間での連絡等におけるICTの活用について検討を進める。
- ・指導方法によって演奏が崩れてしまうこともあり、関係者間でも温度差がある。子供達にとって有意義な活動ができる環境について検討する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

・教職員と指導者間の連絡調整を密に行い、指導感や情報の共有をしながら指導の質の保障と量を確保する。

人材バンクの人数

17名

人材バンクの年齢構成

20代	6名
30代	4名
40代	3名
50代	2名
60代以上	2名

登録者属性

町内で活動する吹奏楽団を人材バンクとして活用。

種目

特に定めていない。

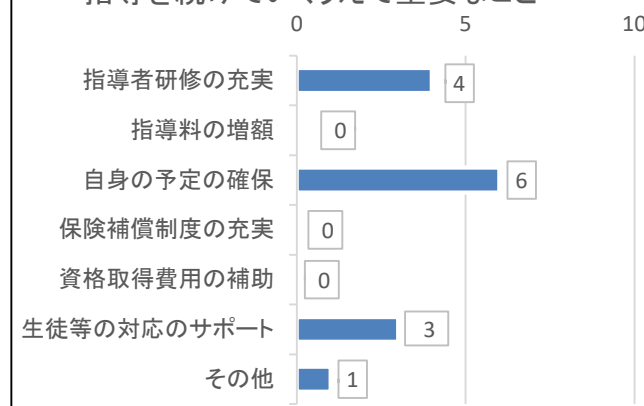
資格有無

資格は無し。

取組の成果

- ・地域で活動する音楽団体（おぐに吹奏楽団）に所属する、指導者として相応しい方を推薦・派遣していただき、質の保障と量を確保することができた。
- ・生徒へのアンケートでは、67%が部活動との指導方針・指導方法の相違は無かったと回答している。一方で違いがあり戸惑う生徒もいたが、概ね顧問と指導者の連携・情報共有により、地域クラブ活動においても部活動同様の活動を行うことができた。
- ・地域の吹奏楽愛好家による楽団であり、団体自体が資質の向上を目的に活動しているものではない。また町内には専門的な知識や技術を持った指導者もおらず、今後は資格を有する指導者の確保が課題である。しかしながら生徒は普段の部活ではできない曲や、地域の大人との演奏など、多様な体験をすることができ、満足した活動ができたと評価をしている。まずは参加する生徒を増やしていきたい。

指導を続けていくうえで重要なこと



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

・学校、PTA、指導者、行政による検討委員会、運営委員会を組織し、関係者間の情報共有や意思統一を図った。

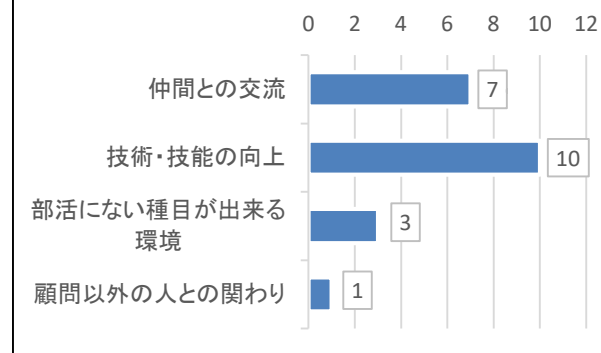
・スクールバスを運行して、生徒の移動手段の確保を図り、保護者の送迎負担を軽減した。

取組の成果

・アンケートの結果では指導者は関係者との連携には概ね満足という評価であったが、教員からは全く評価しないという厳しい結果であった。吹奏楽の活動は、指導者の影響が大きいことから大会前の指導については、休日の活動であっても区別している。学校（教員）から高く評価され継続的な指導を行ってための活動体制についての検討が更に必要であることがわかった。

・生徒は地域とのつながりの中で得られる体験から多くを学び、成長する姿があった。地域の指導者から教えていただいたことで、生徒は、卒業後もライフスタイルに応じたスポーツ・文化芸術活動への参画を希望している。レベルアップを目指す生徒は、専門的知見を持った指導者のもと、個々の資質や能力をより高める活動ができた。

クラブ活動に求めるもの



バス等の運行実績

・小国町は、登下校にスクールバスを利用する生徒は部活動に参加するためにもスクールバスを運行している。クラブ活動であっても部活動と同じ対応を行っている。

バス等の運航経費・収入

・町費で負担。

今後の課題と対応方針

地域の文化活動団体は高齢化が進んでおり、部活動の地域移行を推進していくうえで選択出来る活動のひろがりには難しいと思われる。文化芸術に親しめる環境づくりは生涯学習を推進していくうえでも重要なポイントであることから、多様な放課後活動を選択できるよう地域理解を得ていく取組が必要である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

・受益者負担の課題等について継続的に議論をするとともに、困窮世帯への支援についても検討を行った。

地域クラブに係る経費

■イニシャルコストの分析

・既存のスポーツクラブを受け皿組織（運営主体）とすることで、実証事業にかかる初期費用について特筆すべき点はない。

■ランニングコストの分析

・事務局人件費（237千円）
・指導者謝金（138千円）
・消耗品費（266千円）
・通信運搬費（14千円）
・雑役務費（3千円）
・保険料（34千円）

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算を行った。
（検証結果の詳細は次ページ参照）

月額ver (申込者全員負担)	1回ごとver (参加者のみ負担)	公費負担額
2,730円/月	2,502円/回	237,000円
896円/月	821円/回	519,378円
費用/①/②	費用/③	合計-費用-保険料

「活動費すべてを受益者負担」

「指導者の謝金を受益者負担」

収支バランス

「1回参加すること」に負担を求めると、1ヶ月あたり5千円になることから受益者負担の額が非常に大きくなるとともに、収益の見込みがつかないことから、運営主体において、持続可能な運営は困難になると思われる。低廉な受益者負担を求めたうえで、少なからず行政の支援が必要であると考えます。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等②

取組の成果

- ・運営主体の収支構造を3つに分けて検証を行い「活動費（保険料）」については、各家庭や指導者自らが負担するべきものとする。また、「事務局運営費」については、生徒へ直接的に支援している経費ではないため、国費や町費等の自主財源を活用する。よって、「活動費」を受益者負担の対象に検証を行なっていくこととする。
- ・受益者負担額の設定においては、「1ヶ月単位」で活動の参加有無に関わらず申込者全員で負担する方法と、「1回参加すること」に参加者のみで負担する方法の両面で検証した結果、「1回参加すること」に負担を求めると、1ヶ月あたり5千円になることから受益者負担の額が非常に大きくなるとともに、収益の見込みがつかないことから、運営主体において、持続可能な運営は困難になるとされる。

【全体】

項目	費用	割合
事業費	420,378	61%
諸謝金	138,000	20%
会場使用料	0	—
消耗品費	265,658	—
印刷製本費	0	—
交通費	0	—
雑役務	16,720	—
事業費（保険料）	34,250	5%
生徒	17,600	—
指導者	16,650	—
事務局運営費	237,000	34%
人件費	237,000	—
通信運搬費	0	—
振込手数料	0	—
一般管理費	0	—
消費税相当額	0	—
合 計	691,628	

⇒自己負担

⇒公費負担

①	活動月数	7箇月
②	申込者数	22
③	延べ参加者数	168

案①「活動費すべてを受益者負担」

⇒

案②「指導者の謝金を受益者負担」

⇒

算出根拠

⇒

月額ver (申込者全員負担)	1回ごとver (参加者のみ負担)	公費負担額
2,730円/月	2,502円/回	237,000円
896円/月	821円/回	519,378円
費用/①/②	費用/③	合計・費用・保険料

今後の課題と対応方針

活動費に絞り参加者に負担を求める場合であっても、一定数の参加がなければ賄えないことになり、持続の可能性は難しい。低廉な受益者負担を求めたうえで、少なからず行政の支援が必要であるため、持続的に活動することを前提とした仕組みを構築する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

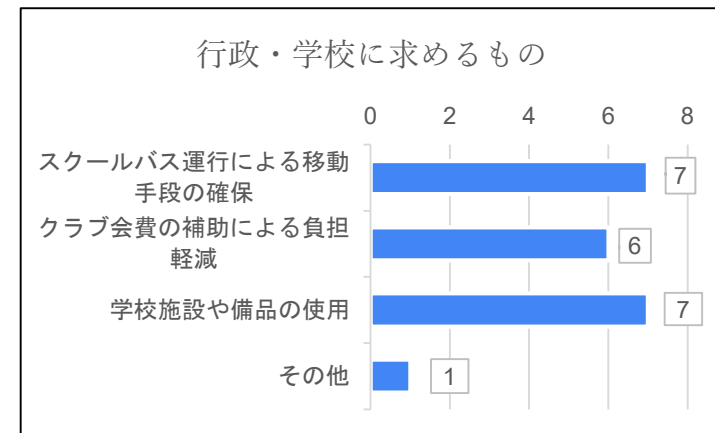
●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

- ・引き続き学校施設を活用することとし、社会開放のケースに準ずる形で活動場所を確保する。
- ・鍵の管理や冷暖房の利用、施設・設備の安全な活用についてルールを見直し、教育委員会と学校、指導者が共有する。

取組の成果

- ・学校施設や学校が保有する楽器等を使用することにより、部活動同様に充実した環境のもとでクラブ活動を行うことができた。
- ・学校施設のカギの受け渡しを、運営主体がしっかり管理することにより、トラブルなく円滑に行うことができた。



今後の課題と対応方針

- ・吹奏楽は楽器の移動が難しく、また保護者から学校施設や備品の使用を求める声があるため、引き続き使用できる連携体制を維持する。
- ・学校が保有する用具等が消耗・劣化した場合の補充経費・負担区分について、議論検討を進める。

2.実証内容と成果①



総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

【人材について】

地域クラブ活動を支える指導者の確保は、音楽団体に所属する指導者を推薦・派遣いただき、量を確保して実施した。

【経費負担について】

文化庁委託事業費千円に、クラブ活動運営費相当分として町単独費133千円を上乗せし、各家庭の負担軽減を図り実施した。

【移動手段について】

実証事業であることを踏まえ、生徒の移動手段として試験的にスクールバスを運行し、保護者の送迎負担の軽減を図り実施した。

●成果の評価

【人材について】

音楽団体の活動が充実していることから、指導者の量を確保して実施することができたことは評価できる。

【経費負担について】

クラブ活動運営費相当分を町単独費で上乗せし、各家庭の負担を出来る限り減らしたことにより、部員全てが地域クラブ活動に参加したことは評価できる。

【移動手段について】

スクールバスを運行したことにより、保護者の送迎負担を軽減できたことは評価できる。

●今後に向けて

【人材について】

指導者の質が課題となっている。生徒が望む活動ができる環境を作るためには、指導者についても広域連携体制の構築を進める必要がある。

【経費負担について】

行政負担を最小限に抑え、受益者負担の原則に基づいたあるべき姿を見据えた地域クラブ活動となるよう、議論検討を進める。

【移動手段について】

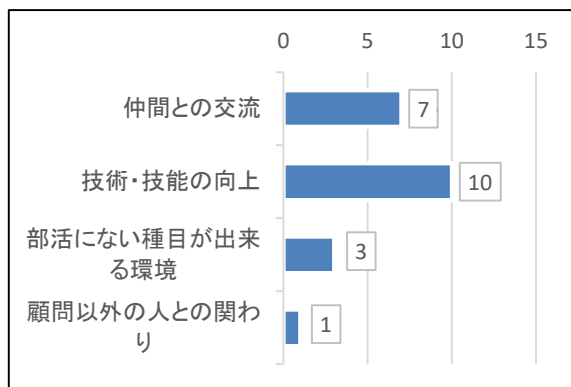
地域クラブ活動におけるスクールバス運行について、保護者の強い要望も踏まえ議論検討を進める。

2.実証内容と成果②

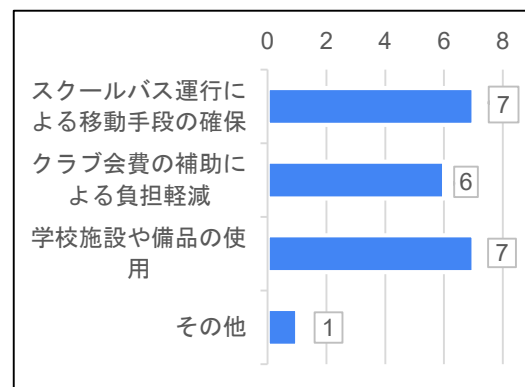
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

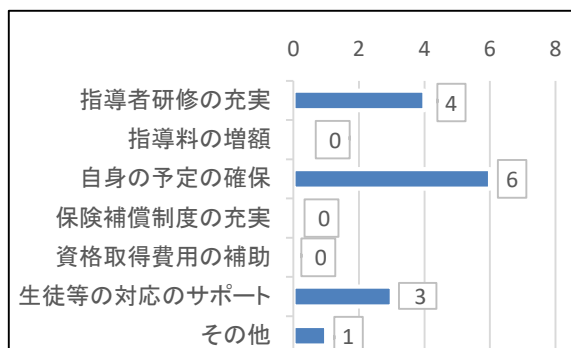
Q. クラブ活動に求めるもの（生徒）



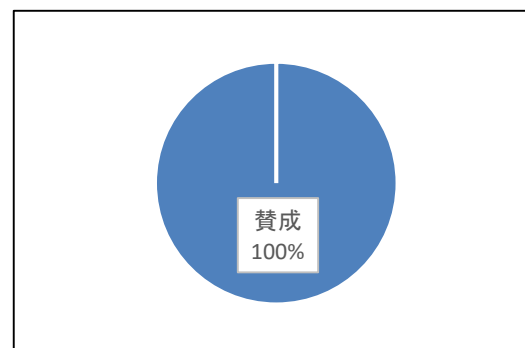
Q.行政・学校に求めるもの（保護者）



Q.指導を続けていくうえで重要なこと（指導者）



Q.平日のクラブ活動移行の賛否について（教員）



●参加者の声

生徒

- ・普段の部活ではできない曲を演奏したり、大人の方たちと一緒に演奏することができて満足でした。
- ・アンサンブルコンテストの編成（特に3人）で合奏したい。好きな曲で合奏してみたいです。

保護者

- ・幼年期から大人まで繋がる活動を広げてほしいです。
- ・地域の方に指導していただき、感謝しています。クラブ活動にかかる経費等について、保護者総会の場合などで共有できればと思います。

指導者

- ・大会前提の指導は不可能。楽器修理の経費を検討必要。
- ・継続可能なクラブにするためのリソースの確保が必要だと感じます。クラブ運営指導を生業とできる会社の設立やクラブ活動へ参与を基本とした協力隊の受け入れ等、仕事として出来るようになると人材のリソースは確保できるでしょうか。

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【クラリネット指導】



【楽譜の読みあわせ】



【トランペット指導】

2.実証内容と成果

地域文化クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



ステークホルダー

学校、保護者、クラブ、スポーツ少年団、行政関係者、コーディネーター

経過

運動部活動の地域移行実証事業を開始するにあたり、令和4年度より検討委員会、運営委員会を設置し、中長期的な方向性の検討、関係機関の役割分担、行政支援の在り方、実証事業にあたってのルールや、事業過程における課題等を検討と評価検証を行うことを確認した。令和5年度からは文化部活動の関係者も含めた組織とし、事業への理解を得て実証事業に取り組んだ。

実施内容

町内基幹中学校の文化部（吹奏楽部活動）において月2回の休日の部活動を取りやめ、地域クラブ活動へ参加する試験的な取組を開始した。

実施にあたって生じた課題

吹奏楽の活動は、指導者の影響が大きいことから大会前の指導については、休日の活動であっても区別している。継続的な指導を行っていくための活動体制について、指導者、学校側との役割分担について検討が必要である。

また、文化活動がひろがりにより多様な放課後活動を選択できるための環境づくりができるよう、地域の理解を得ていく取り組みが必要である。

今後の展開

令和7年度も継続して基幹中学校において、休日の地域クラブ活動を実施する。また、持続可能な地域クラブ運営とするために、会費負担を開始する。活動の継続と文化活動の選択肢がひろがるよう、学校側の意向、指導者確保の見通し等を協議していく。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

	2025年度 (R7年度)	2026年度 (R8年度)	目指す姿
町	地域移行検討委員会・運営委員会の設置及び会議の開催（年3回）		○ 少子化のなかでも、持続的にスポーツ・文化活動ができる。 ○ 学校環境を整備し、子どもたちの選択肢を地域全体で提供。 ○ 学校芸術の振興を図る。 ○ 学校の働き方改革を推進する。
	新たな課題への対応・支援策の検討		
	新たな支援策の実施		
学校	新たな課題への対応		
	学校施設の開放		
	段階的に平日の部活動を制限		
競技団体等	地域クラブ活動への指導者の派遣		
	指導者の確保・育成・資質向上への取り組み		
運営主体	地域クラブ活動の運営		